

自治医科大学看護学部年報 (第13号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報 (第9号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2014

目 次

○ 特別報告

「ブータン医科大学との国際交流協定について」	半澤 節子 ……	5
------------------------	----------	---

○ 活動報告

「本学部の国家試験に対する取り組み」	渡邊 亮一 ……	11
--------------------	----------	----

○ 看護学部委員会等報告

1. 人事委員会	春山 早苗 ……	19
2. 教務委員会	成田 伸 ……	20
3. 学生委員会	大塚公一郎 ……	22
4. FD評価実施委員会・研究推進委員会	永井 優子 ……	24
5. 広報委員会	中村 美鈴 ……	26
6. 編集委員会	本田 芳香 ……	29
7. 国家試験対策委員会	渡邊 亮一 ……	30
8. 臨地実習指導研修委員会	半澤 節子 ……	32
9. 入試実施委員会	渡邊 亮一 ……	33

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

1. 研究科委員会	春山 早苗 ……	37
2. 研究科委員会幹事会	半澤 節子 ……	39

○ 教育研究分野別報告

1. 看護基礎科学	……………	43
2. 基礎看護学	……………	46
3. 地域看護学	……………	48
4. 精神看護学	……………	51
5. 母性看護学	……………	53
6. 小児看護学	……………	56
7. 成人看護学	……………	58
8. 老年看護学	……………	62

○ 大学院看護学研究科 教育の概要

博士前期課程

実践看護学分野

1. 母子看護学領域「小児看護学」 67
2. 母子看護学領域「母性看護学」 68
3. 健康危機看護学領域「クリティカルケア看護学」 69
4. 健康危機看護学領域「精神看護学」 71
5. がん看護学領域「がん看護学」 72

地域看護管理学分野

6. 老年・地域看護管理学領域「老年看護管理学」 74
7. 老年・地域看護管理学領域「地域看護管理学」 75
8. 共通科目 76

博士後期課程

1. 広域実践看護学分野 78

○ 研究業績録

1. 看護基礎科学 81
2. 基礎看護学 83
3. 地域看護学 84
4. 精神看護学 87
5. 母性看護学 89
6. 小児看護学 91
7. 成人看護学 92
8. 老年看護学 95

○ 資料

1. 2014年度（平成26年度）看護学部学年暦 99
2. 自治医科大学看護学部の概況 100
3. 看護学部教職員名簿 101
4. 2014年度（平成26年度）大学院看護学研究科学年暦 102
5. 大学院看護学研究科の概況 102
6. 大学院看護学研究科教職員名簿 103
7. 編集後記 104

特別報告

特別報告「ブータン医科大学との国際交流協定について」

国際交流委員 半澤 節子

1. ブータン王国の概要

我が国の外務省のホームページによると、ブータン王国（Kingdom of Bhutan）は、約38,394平方キロメートル（九州とほぼ同じ）の面積であり、約75.3万人（2013年：世銀資料）の人口を有し、ティンブー（Thimphu）を首都とする。チベット系、東ブータン先住民、ネパール系等の民族で構成され、ゾンカ語を公用語として用い、チベット系仏教、ヒンドゥー教等を宗教として信仰している。

外交については、1971年に国連に加盟したことを契機として、近隣諸国との関係強化を図っており、1980年代にはバングラデシュ、ネパールを始めとする近隣諸国、日本、西欧等との間で外交関係を築き、我が国との関係は20年余りとなる。現在52カ国及び欧州連合との間に外交関係を有している。なお、隣国インドとの関係は、1949年の「インド・ブータン条約」にみるような特殊な関係（対外政策に関するインドの助言）を保持してきた歴史を持つが、2007年3月の改定により同助言に関する条項が廃止され、経済協力、教育、保健、文化、スポーツ及び科学技術の分野での協力関係の促進に関する新たな規定に基づく新たな関係の下で、発展を目指している。ブータン国民の生活をみると、人口の7割が農村地域に居住し、小規模な地域自給自足型の労働集約的農業を中心とした農業に従事している。識字率は63.02%（2012年）、初等教育就学率は96%（2012年）となっている。開発の原則として、国民総生産（GNP）に対置される概念として、国民総幸福量（GNH：Gross National Happiness）という独自の概念“Gross National Happiness is far more important than Gross Domestic Product”を提唱し、経済成長の観点を過度に重視する考え方を見直し、（ア）経済成長と開発、（イ）文化遺産の保護と伝統文化の継承・振興、（ウ）豊かな自然環境の保全と持続可能な利用、（エ）良き統治の4つを柱として、国民の幸福に資する開発の重要性を唱えている。“Gross National Happiness is far more important than Gross Domestic Product”，すなわ

ち、国内総生産よりも国民総幸福量をより重要と考えることでよく知られている。

WHOのホームページ（Bhutan：WHO statistical profile）によると、乳児死亡率は、36人/1,000人（2012年）、出生時平均寿命は男性68歳、女性69歳である。また、国の保健対策により1990年と2012年との統計データを比較した記載をみると、5歳未満の乳幼児死亡率（出生数1000人対死亡数134→36減少）、周産期死亡率（出産数10万対900→120減少）、マラリアによる死亡率（人口10万対2.6→0.0減少）、HIV/negativeで結核による死亡率（人口10万対90→12減少）といった報告がある一方で、HIV/AIDSによる死亡率（人口10万対1.8→8.1と増加）といった報告にみるように、感染症対策の中でも、性感染症の問題は依然として改善すべき重点事項として引き続き対策が急がれる状況にある。

2. ブータン医科大学と自治医科大学看護学部との国際交流事業の経緯

本学は日本の地域医療に貢献することを目的として設立された大学であり、これまで多くの医療に恵まれない地域の医療の向上に寄与してきた。そのうえで、①アジア地域を中心とする国々との交流を通じて、地域医療の推進に貢献する、②アジア地域の異文化体験・理解を通して、国際看護を学び、医療を理解して視野を広げる、③アジア地域の人々との交流を通じて、異文化および医療を理解し、看護問題や健康問題を国際的な視野から捉える、④健康問題や看護問題を国際的な視野から捉え、国際看護のあり方を学ぶという4つの目標のもとで国際交流を進めてきた。

アジア地域における国際交流先の大学を模索する中で、本学医学部救急医学の鈴木教授（当時国際交流委員長）から、JICAを介してブータン王立大学（Royal University of Bhutan）の副学長であったDr. Dssho Pema Thinleyを紹介いただいた。その後、平成23年度に当時国際交流WGのメンバーであった教員3名（中村教授、北村助教、飯塚講師）によりブータン王立大学を訪問し、国

際交流の可能性について交渉し現地を視察した。ブータン王立大学を訪問し、副学長Dr.Dsshoと面会し、RIHS（Royal Institute of Health Sciences, Royal University of Bhutan）の学長であったDr.Chenchoと共に交流や将来の協定に向けた話し合いが行われ、協定締結に向けて合意が得られた。その際、ブータン王立大学としても後方支援するとのお話をいただくことができた。

ブータンを相手国として国際交流をする中で学べる点としては、①ブータン王国は、日本と友好関係にあること、②ブータン王国での伝統的医療と西洋医療が混在した医療状況や医師をはじめとした専門職が不足している状況における看護を実際に体験し、日本のへき地医療の状況と比較することを通して、日本のへき地医療・看護について改めて考える機会が得られること、③チベット仏教と福祉や保健との関連も示唆され、ヘルスケア体制や文化に応じた課題解決への考え方や方法を国際的な視野で学ぶことが期待できること、④同国の学校教育は1960年代から英語で行われ英語による交流が可能であるため、異なる文化をもつ対象への看護の基礎を身につけ、国際看護活動を担える看護師の育成が期待できることといった点を想定していた。このような理由から、RIHS（現 University of Medical Sciences of Bhutan：ブータン医科大学）を国際交流協定校として、ブータン王国を交流の相手国として選定することとなった。なお、平成26年4月には、ブータン医科大学保健看護学部（Faculty of Nursing and Public Health, University of Medical Sciences of Bhutan）に改組及び名称変更がされた。

国際交流事業の目的は、①アジア地域を中心とする国々との交流を通じて、地域医療の推進に貢献する、②アジア地域の異文化体験・理解を通して国際看護を学び、医療を理解して視野を広げる、③アジア地域の人々との交流を通じて、看護問題や健康問題を国際的な視野から捉えられるという3点である。また、この事業の目標は、①ブータンにおける地域住民の生活と医療の特性について把握する、②ブータンにおける地域住民の医療に対するニーズを知る、③地域住民の生活と地域の看護活動との関連を把握する、④目標1, 2, 3に基づき、看護問題や健康問題を理解し、遠隔地域における疾病の予防、健康保持・増進に関する意見交換を行うといった4点である。

2度目のブータン渡航となった平成25年度には、教員（学部長春山教授、国際交流WGとして野々山教授、飯塚講師）と学生8名によるブータン渡航プログラムが開始された。3度目の渡航となった平成26年度には、教員（教務委員長の成田教授、国際交流WGとして飯塚講師、半澤）と学生7名によるブータン渡航プログラムとともに、ブータン医科大学と自治医科大学との国際交流協定（Memorandum of understanding；MOU）を締結することができた。



3. 平成26年度ブータン医科大学と自治医科大学との国際交流協定の締結の内容

ブータン医科大学学長（Kinzang P Tshering, Interim President）と本学看護学部教務委員長の成田教授を囲み、自治医科大学永井学長にサインをいただいた国際交流協定書（MoU）が交わされ、ブータン医科大学保健看護学部の教員、本学看護学部の教員（飯塚講師、半澤）、渡航した学生7名が同席し、締結式が粛々と執り行われた。

協定書には、「両教育・研究機関の相互利益・発展、国際理解、および友好親善に対する相互の信頼を基礎として、正式な交流協定に向けた取り組みを開始することに合意する」と明記され、詳細な事項として以下の6点が記載された。

(1)両教育・研究機関は、各々の学術的かつ教育的必要性に基づき、次に挙げる活動において協力すること、すなわち、①研究資料、刊行物および情報の交換、②共同研究プログラムの計画、③学生の交流、④教育・研究者の交流、⑤双方の同意により適切とみなされるその他の活動という5つである。(2)特定の協力分野における条件については、活動開始に先立ち、両者が書面により合意するものとする、(3)活動についての具体的なブ

ログラムや資金は、両者の承認を必要とすること、(4)両者は、本協定書が法的関係、権利、義務または効果を生じる正式な法的取り決めではなく、学術的協力に対する双方の関心の表明にすぎないことに同意すること、(5)本協定書の締結期間は、共同署名日から5年間とし、両教育・研究機関の代表者が署名および日付の記入を行ったときに効力を生じること、(6)本協定書は、両者の双方の同意により改正することができる。また、本協定書は、提案された終了日の少なくとも6ヶ月前までに、当事者の一方が他方の当事者に書面で通知することにより、終了することができること、といった5つの事項が記載された。

4. ブータンでの研修プログラムにおける学び

ブータン国際交流プログラムは2014年8月16日から24日までの9日間で行われた。現地での研修のプログラムは、全体を通して構成が大変良く、効果的に学ぶことができた。

研究初日の午前には、国際交流協定（MoU）の締結式が行われた。また、午後はブータンの健康課題と医療及び保健サービスに関する講義をしていただき、性感染症予防と母子保健（Maternal Child Health and Infection Control）、薬物乱用（Substance abuse）、訪問看護システム（Healthcare delivery system）などが主要な健康課題として対策が講じられていることを学んだ。最後に看護学部の演習室を見学した。

2日目には、へき地を含む地方都市（パロ）まで首都ティンブーから車で3時間かけて移動し、山岳地帯をキャッチメントエリアとした地域保健センター（Drugyal Basic Unit）を視察し、登山用の装備で徒歩でなければ訪問できない家庭への訪問看護の実践についてお話を伺い、また、重症な患者が入院医療を受けられる小規模な地域拠点病院（Paro hospital）を視察した。3日目には、首都ティンブー市内の病院とサテライトクリニックや住民の集う公民館や図書館を見学した。

4日目の午前には、全校集会に参加した。ここでは、平成27年度に本学においてブータン医科大学教員及び学生の招聘プログラムを予定し、渡航費用（交通費、滞在費、食費を含む）を本学が負担し招待することをお伝えした。また、午後には国立病院におけるブータンの学生と本学学生による病棟での実習を行った。本学の学生1

名とブータンの学生1名がペアになり、病棟に配置されて合同実習を行った。5日目には伝統医療施設（Institute of Traditional Medicine）の見学、JICA職員によるブータンにおける医療保健の概要と今後の国際支援における課題の説明など、大変豊富な内容であった。途上国ブータン王国における人口密集地域ティンブーと山間へき地であるパロの両地域を視察することで、我が国の都市とへき地の人々の生活、文化の違いに通じるものが理解でき、学生にとっても満足度が高く、長く記憶に残る研修となった。

5. ブータン医科大学との国際交流の方向性

平成26年度から開始された5年間に渡るブータン国際交流事業において、2年目にあたる平成27年度はブータン招聘プログラムを予定している。本学はすでにブータン医科大学保健看護学部を2回に渡り訪問し、視察研修プログラムを体験させていただいた。平成27年度はブータン医科大学の教員と学生に来日していただき、本学看護学部の研修プログラムの中で先進医療とへき地医療を視察していただき、同時に日本の文化や生活を実際に経験していただくことを計画している。さらに、平成28年度以降には、再び本学からブータン医科大学を訪問し、交流と学びを発展、継続させていけるよう計画している。

活動報告

活動報告「本学部の国家試験に対する取り組み」

国家試験対策委員長 渡邊 亮一

1. はじめに

自治医科大学看護学部（以下、本学部という）の2014年度保健師助産師看護師国家試験の成績は、本年報の委員会等報告のなかの国家試験対策委員会の項で詳細に報告しているが、保健師・助産師の合格率は100%、看護師の合格率も新卒に限れば100%とたいへん良好な結果であった。これまでも本学部の国家試験の合格率が100%を達成したことはあるが、3つの資格ともほぼ100%という成績を収めたのは、開学以来はじめてと言っても過言ではない。

また、2014年度の国家試験を受験した本学部の新卒者は第10期生であり、2014年度国家試験は、本学部にとっては節目となる国家試験であった。このような点を背景にして、本稿では、本学部の国家試験に対する取り組みを紹介する。

2. 保健師助産師看護師国家試験の現況

表1は、保健師助産師看護師国家試験（以下、看護師等国家試験という）の変遷をまとめたものである。この表からわかるように、看護師等国家試験は、厚生労働省「医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会」において、数年の間隔をおいて改善のための検討が行われている。この検討によって、本学部の第1回卒業生が国家試験を受験する前々年に、応用力を問う問題を導入する目的で国家試験の試験時間が延長され、前年に看護師国家試験に30問の必修問題が導入された。その後、必修問題は2010年から50問に変更され、同時に、択一式の問題だけでなく、複数選択の問題が導入された。さらに、2013年から、保健師と助産師の国家試験の状況設定問題が30問から35問に変更された。また、非選択式の計算問題、状況設定問題における2連問の導入などが行われている。

今後も、看護師等国家試験は、数年の間隔で改善が検討され、試験の出題内容や出題形式等に変更が加えられることが想定されるので、これらの変更迅速かつ柔軟に対応した国家試験対策が必要である。

3. 本学部の国家試験の成績（合格率）

本学部の過去10年間の国家試験の成績（合格率）は、表2のとおりである。看護師・保健師の国家試験の合格率は、いずれの回も全国平均を上回っており、全国平均を下回ったことはこれまでに一度もない。それに対して、助産師の国家試験の合格率は、残念ながら、これまでに数回、全国平均を下回ったことがある。これは、助産師の国家試験は受験者数がきわめて少ないので、不合格者が1名でもいると、合格率は一気に下がるからである。

看護師の国家試験の合格率は、全国平均を大きく上回っており、合格率100%を達成したこともあるが、残念なことに、本学部の学生は、伝統的に必修問題に弱い。そのため、看護師国家試験の不合格者のうち約3/4は、必修問題の成績が合格基準に達していなかったことによっている。

4. 本学部の国家試験対策の位置づけ

本学部の理念は、「看護の分野において自治医科大学の建学の理念を実現させるために、高い資質と倫理観を持ち、高度医療と地域看護に従事できる看護専門職を育成するとともに、保健医療福祉の発展に貢献する。」ことである。卒業する学生を保健師・助産師・看護師等の国家試験に合格させることが本学部の教育の目的や目標ではないが、高い資質と倫理観を持った看護専門職の育成には、国家試験の合格は必要最低限の条件である。また、自治医科大学の中期目標・中期計画では、「医師・看護師・保健師・助産師の国家試験における高い合格率を維持する。」ことがあげられている。

したがって、国家試験対策は本学部が取り組むべき重要な活動のひとつとなっており、これを担う組織として国家試験対策委員会が組織されている。国家試験対策委員会は、5～6名の委員で組織されているが、2013年より国家試験対策委員会の下部組織として国家試験対策委員会ワーキンググループが組織され、その委員5名もともに国家試験対策の活動を展開している。もちろん、国家試験対策の活動は、国家試験対策委員会とそのワー

表1 保健師助産師看護師国家試験の変遷

名 称	改善事項および改善時期
国家試験の改善に向け検討する会 (医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会国家試験検討委員会) (昭和56年8月～昭和60年6月) ＜中間意見書(昭和60年6月)＞	＜検討中に改善されたこと＞ ●看護婦国家試験について ・「指定規則」に応じて試験科目ごとの出題数を変更（昭和57年春から実施） ・状況設定問題の導入（昭和58年春から一部実施） ・主要科目の出題目標と範囲の明確化【出題基準の試行】（昭和59年春から実施） ＜改善が提案された事項＞ ●国家試験の実施を年1回とする ・保健婦、助産婦（昭和63年から実施）、看護婦（平成2年から実施）
医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会国家試験検討委員会 (～昭和63年4月14日) ＜報告書(昭和63年4月14日)＞	●客観式多肢選択問題（一般問題）の出題形式の変更（平成2年から実施） ・五肢択一 → 四肢択一 ・解答時間1問90秒 → 60秒 ・（看護師）出題数150問、総解答時間2時間30分 ・（保健師・助産師）出題数75問、総解答時間1時間15分 ●看護師国家試験における状況設定問題の導入 ・解答時間1問2分 ・出題数60問、総解答時間2時間 ・午前は一般問題、午後は状況設定問題 ●出題基準 ・保健婦助産婦看護婦国家試験出題基準の適用（平成2年から実施） （出題基準は4年ごとの見直しが必要） ●完全プール制の導入は現時点では不可能。既出問題の一部を洗練し、問題をプールし使用することは適当。
医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会国家試験検討委員会 (平成6年11月18日～平成7年3月30日) ＜報告書(平成7年3月30日)＞	●国家試験の実施時期を1週間繰り上げ（平成9年から実施） ●卒業（修業）証明書の提出期限は3月上旬に繰り上げ（平成9年から実施） ●保健婦・助産婦国家試験の主観式問題を客観式問題（状況設定問題）に変更することを検討
医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会国家試験検討委員会 (平成7年8月30日～平成8年3月26日) ＜報告書(平成8年3月26日)＞	●保健婦・助産婦国家試験の主観式問題を状況設定問題に変更（平成9年から実施） ・解答時間1問2分 ・出題数30問、総解答時間1時間
医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善部会 (平成13年7月10日～平成14年3月29日) ＜報告書(平成14年3月29日)＞	●応用力を問う問題を導入するため試験時間を延長（平成15年から実施） ・一般問題1問60秒 ・応用力を問う一般問題1問90秒 ・保健師・助産師国家試験 総解答時間2時間20分 ・看護師国家試験 総解答時間4時間45分 ●看護師国家試験における必修問題（30問）の導入（平成16年から実施） ・出題数および時間の延長 出題数240問、総解答時間5時間15分 ・合格基準 必修問題は絶対基準、その他は相対基準 ●試験問題の公募およびプール制の導入
医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善部会 (平成19年9月1日～平成20年3月24日) ＜報告書(平成20年3月24日)＞	●保健師助産師看護師国家試験の必修問題について ・看護師国家試験 出題基準の改定の時期に併せて30問から50問に変更（平成22年から実施） ●保健師助産師看護師国家試験の出題形式について ・K2タイプの廃止・X2タイプの導入（平成21年から実施） ●写真等の視覚素材の導入の促進（平成21年から実施）
医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善部会 (平成23年11月～平成24年3月) ＜報告書(平成24年4月)＞	●出題内容と出題数について ・職種ごとの出題内容の充実を図る ・保健師および助産師国家試験の状況設定問題数を30問から35問に変更 ・状況設定問題における2連問の導入 ●非選択式の計算問題の導入 ●看護師国家試験における評価領域分類について ・必修問題では評価領域分類Ⅰ型、状況設定問題では評価領域分類Ⅱ・Ⅲ型を中心とした出題 ●写真等の視覚素材の導入の促進 ●公募問題の周知促進

（厚生労働省：医道審議会（保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会）の会議資料を改変）

表2 本学部の国家試験合格率の年次推移

年度		試験回数	区分	受験者数			合格者数			不合格者数	合格率（％）		全国合格率（％）
				新卒	既卒	計	新卒	既卒	計		新卒のみ	既卒含	
2005	1回生	第95回	看護師	96	－	96	94	－	94	2	97.9%	97.9%	88.3%
		第92回	保健師	105	－	105	86	－	86	19	81.9%	81.9%	78.7%
		第89回	助産師	15	－	15	15	－	15	0	100.0%	100.0%	98.1%
2006	2回生	第96回	看護師	97	2	99	92	2	94	5	94.8%	94.9%	90.6%
		第93回	保健師	106	14	120	106	14	120	0	100.0%	100.0%	99.0%
		第90回	助産師	15		15	11	0	11	4	73.3%	73.3%	94.3%
2007	3回生	第97回	看護師	99	5	104	97	4	101	3	98.0%	97.1%	90.3%
		第94回	保健師	108	4	112	100	4	104	8	92.6%	92.9%	91.1%
		第91回	助産師	13	4	17	13	4	17	0	100.0%	100.0%	98.1%
2008	4回生	第98回	看護師	94	4	98	90	3	93	5	95.7%	94.9%	89.9%
		第95回	保健師	104	7	111	102	7	109	2	98.1%	98.2%	97.7%
		第92回	助産師	7	0	7	7	0	7	0	100.0%	100.0%	99.9%
2009	5回生	第99回	看護師	94	5	99	93	4	97	2	98.9%	98.0%	89.5%
		第96回	保健師	102	6	108	91	5	96	12	89.2%	88.9%	86.6%
		第93回	助産師	10	0	10	8	0	8	2	80.0%	80.0%	83.1%
2010	6回生	第100回	看護師	109	2	111	109	2	111	0	100.0%	100.0%	91.8%
		第97回	保健師	113	5	118	107	2	109	9	94.7%	92.4%	86.3%
		第94回	助産師	11	2	13	11	2	13	0	100.0%	100.0%	97.2%
2011	7回生	第101回	看護師	93	0	93	90	0	90	3	96.8%	96.8%	90.1%
		第98回	保健師	93	3	96	88	2	90	6	94.6%	93.8%	86.0%
		第95回	助産師	8	0	8	7	0	7	1	87.5%	87.5%	95.0%
2012	8回生	第102回	看護師	101	4	105	98	3	101	4	97.0%	96.2%	88.8%
		第99回	保健師	100	5	105	99	4	103	2	99.0%	98.1%	96.0%
		第96回	助産師	8	1	9	8	1	9	0	100.0%	100.0%	98.1%
2013	9回生	第103回	看護師	111	4	115	108	2	110	5	97.3%	95.7%	89.6%
		第100回	保健師	111	4	115	108	3	111	4	97.3%	96.5%	86.5%
		第97回	助産師	8	0	8	7	0	7	1	87.5%	87.5%	96.9%
2014	10回生	第104回	看護師	102	5	107	102	3	105	2	100.0%	98.1%	90.0%
		第101回	保健師	102	1	103	102	1	103	0	100.0%	100.0%	99.4%
		第98回	助産師	6	1	7	6	1	7	0	100.0%	100.0%	99.9%

キンググループだけで担える訳ではなく、学生本人、すべての教員、事務職員の協力のもとで行われている。

5. 本学部の国家試験対策委員会の活動

国家試験対策委員会では、3年生と4年生を対象に国家試験対策活動を展開している。以前は、2年生を対象に模擬試験を実施するなどの国家試験対策活動を行っていた時期もあるが、活動の効果があまりないと考えられることから、現在では、「国家試験対策」と銘打った活動は3年次より行っている。

3年次に行う国家試験対策活動は、国家試験のガイダンス、相談、模擬試験などである。まず、ガイダンスは、後学期実習が始まる直前の10～11月に実施している。このガイダンスでは、学生が国家試験を正しく理解・把握することを主眼とし、国家試験の試験時期、試験場所、試験時間、問題数、問題の形式、看護師国家試験には必修問題が含まれること、出題基準や合格基準などを説明し

ている。出題基準については、厚生労働省のホームページに掲載されているので、必ず確認しておくように話している。また、本学部のこれまでの国家試験の成績（合格率）を提示して、十分に準備をしなければ、学内の成績がよくても不合格となる可能性があることや、地方公務員などのように、早い時期に就職試験がある場合には、その就職試験に国家試験のための学習が役立つことなどを説明している。さらに、国家試験対策委員会の委員やワーキンググループの委員を紹介し、国家試験に関する相談をしたい場合には、それらの教員に相談するように話している。また、国家試験に関する参考書・問題集、各種のパンフレット等は、学生サロンの国家試験対策コーナーに置いてあるので、適宜、閲覧・参照するように話している。模擬試験については、3年次後学期の実習終了後の2月に、専門基礎科目の実力確認テストを任意（希望）で実施しており、毎年9割以上の学生が受験している。

4年次に行う国家試験対策活動は、国家試験受

験に向けてのガイダンス、国家試験対策ゼミの実施、模擬試験の実施、国家試験対策委員会委員等による国家試験に関する個別の相談・指導、国家試験勉強のための参考書・問題集の紹介、国家試験の出願手続などである。

まず、国家試験受験に向けてのガイダンスは、進級時の4月、国家試験出願手続を行う11月、国家試験の受験票を配付する2月の計3回実施している。4月の進級時オリエンテーションのなかで実施するガイダンスでは、4年次の1年間に実施する国家試験対策活動の全体像を説明し、① 国家試験に臨む心構え、② 保健師や助産師の国家試験には4年次の講義・演習・実習等で学習することが重要であること、③ 学習計画を立てそれにしたがって学習すること、④ はじめのうちは長い時間学習するのではなく、学習する習慣を身につけること、⑤ 参考書や問題集は数多くを揃えても使わなければ意味がないこと、⑥ 模擬試験の成績に一喜一憂せず、ゴールは国家試験の合格であることを見失わないようにすることなどを説明している。次に、国家試験出願手続を行う11月に実施するガイダンスでは、① 必ず合格するという強い意思をもって学習すること、② 学内の成績や模擬試験の成績がよくても油断しないようにすること、③ 後述する国家試験対策ゼミを上手に活用すること、④ 最後の模擬試験は本番のつもりで臨むことなどを話している。さらに、国家試験の受験票を配付する2月に行うガイダンスでは、① 受験までの過ごし方（免疫力の維持、夜型から昼型に戻すことなど）、② 受験前の準備（試験会場の下見、持ち物（受験票、防寒用具、常備薬等）の準備と確認）、③ 受験当日試験会場で確認すること（トイレの場所、途中退出した後に過ごす場所等）、④ 試験が開始時に行くこと（深呼吸をする、肩を回すなどのリラクセス法）、⑤ 受験番号や解答のマークの仕方（受験番号をマークする際はゼロの位置を確認すること、解答は11問以上をまとめてマークしないようにすること）、⑥ 合格するかどうかを心配するのではなく、目の前の試験に最善を尽くすことなどを説明している。なお、厚生労働省から国家試験の出題形式等の変更が通知された際には、これら3回以外にもガイダンスを開催している。

次に、国家試験対策ゼミは、国家試験に出題される内容を担当している各学科目の教員に協力を依頼し、それぞれの科目について、2コマ程度の

講義を実施している。専門基礎科目については後学期開講前の9月に、看護系の科目については11月から1月の間に、総計25コマ程度の国家試験対策ゼミを開講している。国家試験対策ゼミの参加は学生の任意であるが、毎年80名程度の学生が参加している。

模擬試験については、看護師模擬試験3回と保健師模擬試験2回は原則として全員受験、看護師の必修問題模擬試験1回と助産師模擬試験2回は任意受験とし、計8回の模擬試験を学内で実施している。

模擬試験の成績は、学生にフィードバックするが、同時に国家試験対策委員会の委員間でも共有し、その成績を材料として学生の個別面接・指導・学習相談等を実施している。個別面接・指導・学習相談等は、学生を5グループ（1グループの学生数は20～25名程度）に分け、国家試験対策委員会の委員1名とワーキンググループの委員1名がペアとなって、1グループずつ担当して実施している。これらは、国家試験の受験に向けて不安や悩みを抱える学生にとって、たいへん役に立っていると考えている。特に、近年は、精神的に不安定な学生の数が増加しているため、そのような学生にとっては不安や悩みを解決するため、国家試験対策委員会の委員にとっては学生の状況を的確に把握するために効果を発揮していると考えている。また、これらの学生の状況は、1～2か月に1回開催する国家試験対策委員会のなかで報告し、委員全員で情報を共有し、自分が担当する学生だけではなく、他の学生の状況も把握することに役だっている。

次に、国家試験勉強のための参考書・問題集の紹介については、国家試験の学習のために有用であると考えられる参考書や問題集をリストアップし、一覧表にまとめて4年次の最初のガイダンスの際に配付している。また、リストアップした参考書や問題集の見本は、学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに配置し、学生がいつでも利用できるようにしている。同時に、業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講習会等のパンフレットも置き、学生のために便宜を図っている。

国家試験の出願手続については、看護学務課に担当してもらい、受験願書等の作成・提出、受験票の交付などを行っている。

6. 本学部の国家試験対策の課題

ここでは、これまで述べたことに基づいて、本学部における国家試験対策の課題について述べる。ただし、ここで述べる内容は、国家試験対策委員会等で議論した結果ではなく、筆者の私的な見解であることをお断りしておく。

「2. 保健師助産師看護師国家試験の現況」で述べたとおり、看護師等国家試験の出題形式や内容は数年おきに見直されている。単に知識を問う問題ではなく、問題解決の能力を見る問題、多方面の知識を組み合わせる問題など、問題の内容は多様化している。また、択一式の問題だけではなく、複数選択の問題、非選択式の計算問題、状況設定問題の拡大など、解答形式も多様化している。これらの変化に対応して国家試験に合格するためには、表層的な知識を習得するような学習ではなく、応用力を養い、問題解決が可能となるような学習が必要であり、国家試験対策のための参考書や問題集を開いて読むだけの学習では、合格は困難である。すなわち、国家試験に余裕をもって合格するためには、4年間の学部教育のなかで応用力や問題解決能力を養うことがきわめて重要である。

しかし、一方で、国家試験を受験する本学部の学生の学力は、今後さらに低下していくことが懸念される。一般に、大学生の学力の低下が指摘されるようになってから久しいが、この状況は今後もしばらく続くと考えられ、本学部も例外ではない。このような状況には、少子化や看護系大学の著しい増加によって、従来は大学教育を受けていなかったと思われる学生が入学するようになったことが影響していると考えられるが、今後も引き続き、同様の状況が続くと考えられるからである。したがって、低い学力で入学してくる学生を、4年間で、どのようにして国家試験に合格する水準にまで引き上げるのかは、大きな課題である。

近年では、多くの大学において精神的な問題を抱える学生が少なくないと聞いている。本学部でも、精神的な問題を抱える学生が少なからずいる。精神的な問題を抱えている学生でも、ほとんどは何とか卒業できる状況に漕ぎつけられる。このような学生の大多数は、国家試験を受験し、無事合格しているが、最近では、国家試験を受験しない、あるいは国家試験を受験したくないという学生が出現しはじめている。このような学生は、無

理に国家試験を受験させるのではなく、本人の意思を尊重して対応してはいるが、このような学生は、今後さらに増加するものと予想される。そのため、国家試験対策の観点から言えば、国家試験を受験する学生と受験しない学生を的確に把握して対応していく必要がある。また、精神的な問題を抱える学生の場合、国家試験に合格したいがために無理をする場合や、精神的にさらに追い込まれる場合が少なくない。したがって、このような学生については、学生が精神的・心理的な状況を的確に把握し、国家試験の勉強に少しブレーキをかけるなど、精神的な負担を軽減するような対応も必要である。

7. おわりに

本稿では、本学部における開学以降約10年間の国家試験対策活動を述べてきた。

冒頭で述べたように、国家試験の高い合格率を維持することが大学教育の目的でないことは明らかである。しかしながら、高い資質をもち、これからの保健医療福祉に貢献できるような看護職を育成するためには、潜在能力のある受験生を入学させる必要がある。国家試験の高い合格率は、そのための手段である。すなわち、潜在能力のある受験生を入学させるためには、受験生にとって本学部が魅力的でなければならず、国家試験の合格率は、本学部の魅力をアピールするための大きなポイントのひとつである。したがって、国家試験の高い合格率を維持することは、結果的に、高い資質を有する看護職を育成することに大きく貢献する。

本稿が、本学部のこれからの国家試験対策にいささかでも寄与できれば幸いである。

文 献

- 1) 厚生労働省：医道審議会「保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会」会議資料，2015年10月30日，<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000099632.pdf>

看護学部委員会等報告

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

本委員会の所管事項は下記のとおり

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
- (2)非常勤講師の選考に関する事項
- (3)その他学部長が必要と認めた事項

8	2月24日	・成人看護学担当教員（准教授又は講師）候補者の選考について ・成人看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・成人看護学担当教員（助教）候補者の選考について
9	3月24日	・平成27年度看護学部非常勤講師の任用（1人）について

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者（5名以上7名以内）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山学部長	委員長
成田教務委員長	委 員
大塚学生委員長	委 員
永井FD委員長	委 員
被選考教員の関連領域の教授等	委 員
学部長が必要と認めた者（2名以内）	委 員

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、表2のとおり人事委員会を開催した。

表2 2014年度の審議事項

回	開 催 日	審議事項
1	4月22日	審議事項なし（報告のみ）
2	6月24日	・小児看護学担当教員（助教）候補者の選考について ・人事委員会の申し合せ事項の一部改正（案）について
3	10月16日	・基礎看護学担当教員（教授又は准教授）候補者の選考について
4	11月25日	・基礎看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・母性看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・成人看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・平成27年度非常勤候補の追加任用（3人）について
5	12月22日	・平成27年度非常勤講師の任用（1人）について
6	1月20日	・母性看護学担当教員（助教）候補者の選考について ・平成27年度看護学部非常勤講師の任用（3人）について
7	2月16日	・学内教員の昇任選考について ・平成27年度看護学部非常勤講師の任用（2人）について

教務委員会

委員長 成田 伸

1. 所管事項

本委員会は、授業及び試験、単位及び課程の修了、学生の入学、退学、休学及び卒業等、学生の修学指導、授業関係の予算、その他学部長が必要と認めた事項を検討するために設置され、10名の委員で構成されている。

2. 委員会の構成

構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
成田 伸 教授	委員長、助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考(主)、夏季へき地研修
本田 芳香 教授	副委員長、実習調整(主)
永井 優子 教授	カリキュラム運用(主)、実習調整(副)
中村 美鈴 教授	既修得単位認定(副)
野々山 未希子 教授	授業予算(主)
半澤 節子 教授	共通物品(主)
宮林 幸江 教授	既修得単位認定(主)
渡邉 亮一 教授	時間割(主)
横山 由美 教授	カリキュラム運用(主)、時間割(副)
小原 泉 教授	時間割
鈴木 久美子 准教授	夏季へき地研修(主)

3. 活動内容

11回の委員会を開催した。委員会に先立って、各担当を中心として十分に事前検討し資料を作成し、委員会の実効性を高めた。

表2 平成26年度の審議事項

回	開催日	議 題
1	平成26年4月10日	前学期履修状況、既修得単位認定、平成26年度授業関係予算の予算配分、教務委員会下部組織年間計画等
2	平成26年5月8日	前学期履修状況、既修得単位認定、平成26年度授業関係予算の予算配分、教務委員会下部組織年間計画、臨床教授等の平成26年度活動計画等
3	平成26年6月12日	平成27年度教室整備に係る予算、平成27年度以降の講義・実習に係る機器備品購入計画(案)、対象の理解実習の学生配置、平成27年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考、平成20年度版看護総合セミナー、総合実習の振り返り報告会、平成26年度実習教育説明会評価、実習調整担当会議報告、平成26年度2年次後学期実習2科目実習場の一部変更、定期試験の試験監督、休日・祝日の実習実施等

4	平成26年7月10日	前学期定期試験時間割、前学期履修状況、平成20年度版看護総合セミナー・総合実習の振り返り報告会、看護学部演習室の使用方法の整備、平成27年度以降の講義・実習に係る機器備品購入計画(案)、平成27年度授業関係予算、教室整備に係る予算、平成27年度時間割の作成、平成27年度年間実習配置(案)、平成27年度附属病院における看護学実習病棟及び控室に関する希望調査、平成26年度2年次後学期実習グループ編成(案)、平成26年度3年次後学期実習学生配置表(案)、平成27年度教育支援者の委嘱、夏季へき地研修の実施計画、科目責任者の変更等
5	平成26年9月11日	学生の復学・退学、前学期再試験、平成27年度学年暦(案)、平成27年度科目等履修生募集、平成27年度授業関係予算、教室整備に係る予算、平成27年度モデル時間割、平成27年度教育支援者委嘱計画、平成20年度版看護総合セミナー・総合実習の振り返り報告会、平成26年度2年次後学期実習学生・教員配置、学生の学習状況・学習環境状況調査、私立大学経常費補助金定員管理における留年者取扱いの変更等
6	平成26年10月9日	前学期単位取得状況、平成27年度モデル時間割、平成27年度教育支援者委嘱計画(結果)、平成27年度科目等履修生開講授業科目・募集定員、平成27年度看護総合セミナー・総合実習、「へき地の生活と看護」の研修(報告)、公衆衛生看護実習学生配置、前学期実習における「安心・安全が脅かされる出来事の発生」状況等
7	平成26年11月13日	後学期履修状況、平成27年度実習教育説明会の企画、新カリキュラム説明会の開催及び履修調べ(結果)、看護学部演習室使用方法等の変更、平成27年度教育用機器備品残額、「研究セミナー」と「看護総合セミナー」の継続性等
8	平成26年12月11日	後学期履修状況、平成27年度科目責任者、平成27年度シラバス(到達目標、備考欄)および平成27年度科目等履修生開講授業科目・募集定員等の依頼、平成27年度学年暦、オリエンテーション計画、新カリキュラム説明会の企画、平成27年度附属病院における看護学部実習病棟及び控室に関する調整結果、平成27年度総合実習・看護総合セミナーの展開、平成27年度看護基礎セミナーの展開、平成27年度看護トピックスの展開、体調不良等の学生への対応方法等
9	平成27年1月8日	後学期定期試験時間割、平成27年度実習教育説明会の企画、新カリキュラム説明会の企画、平成27年度総合実習・看護総合セミナーの展開、平成27年度看護基礎セミナーの展開、平成27年度看護トピックスの展開、附属病院における看護学実習の結果等
10	平成27年2月12日	4学年後学期習得単位、卒業認定、新カリキュラム説明会の企画、平成27年度附属病院における看護学部実習控室、卒業時到達度評価および総合実習・総合セミナーの展開、看護基礎セミナーの展開、看護学部ボー

		トフォリオの活用状況調査, 平成27年度3年次前学期実習学生配置(案), 平成27年度3年次後学期実習ローテーション表(案), 臨床教授等の平成26年度活動報告, 平成27年度教育用消耗品, 機器備品予算の内示, 平成28年度以降教育用機器備品購入計画, 英語課外授業実施結果報告, 平成27年度時間割モデル等
11	平成27年 3月12日	休学・退学・復学, 後学期単位取得状況, 助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考試験結果, 平成26年度教務委員会下部組織活動報告, 平成27年度教務委員会下部組織体制, 平成27年度4月オリエンテーション, 旧カリキュラム履修者の再履修科目読み替え, 平成27年度看護基礎セミナー, 文献講読セミナーの担当者, 平成26年度臨床教授等の実績活動報告, 平成28年度以降教育用機器備品購入計画, ラボルームの運用, 平成27年度3年次前学期実習学生配置(案), 平成27年度看護総合セミナー・総合実習, 平成27年度看護トピックス, 臨床教員の派遣依頼, 学生カルテ等

学生委員会

委員長 大塚公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生のキャリア支援に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、キャリア支援担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
大塚公一郎 教 授	委員長
永井 優子 教 授	副委員長 奨学生選考担当
北田 志郎 准教授	委員 学友会幹事
里光やよい 准教授	奨学生選考担当
鈴木久美子 准教授	キャリア支援担当
角川 志穂 准教授	キャリア支援担当
田村 敦子 講 師	キャリア支援担当
長谷川直人 講 師	キャリア支援担当

表2 下部組織

氏 名	役 割
安藤 恵 助 教	キャリア支援担当
中塚 麻美 助 教	キャリア支援担当

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、平成26年度も、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が

担当した。これらの活動は、本学部の看護学務課、看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となっており、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。

学生の将来の進路決定の支援は、キャリア支援担当が中心となっており、26年6月3日に行われた附属病院による就職説明会とは別に、27年2月19日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者への指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

近年の本学部生がかかわる交通事故の増加を顧みて、27年度学生便覧の車両関係の項目の改訂、補充を行い教授総会にて承認された。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。

表3 平成26年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2014年4月3日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2014年5月8日	(1)看護学生寮防災訓練 (2)奨学金貸与申請 (3)学生自治会役員名簿 (4)キャリア支援関係
3	2014年6月5日	(1)学生寮防災訓練報告 (2)学生支援機構奨学金 (3)看護学部校舎防災訓練日程
4	2014年7月3日	(1)学部校舎防災訓練 (2)奨学金マニュアル (3)就職の学内推薦
5	2014年9月4日	(1)学部校舎防災訓練 (2)駐車場申請許可 (3)キャリア支援関係
6	2014年10月2日	(1)「将来のキャリアを考ええる会」の運営 (2)日本学生支援機構奨学金の学生への説明会 (3)進路決定届提出状況
7	2014年11月6日	(1)学部校舎防災訓練日 (2)学部奨学金貸与 (3)キャリアガイダンス
8	2014年12月4日	(1)学長賞選考委員検討 (2)薬師祭時間外帰寮願い (3)「将来のキャリアを考える会」計画
9	2015年1月8日	(1)卒業式送辞担当学生 (2)「将来のキャリアを考える会」計画 (3)学部および学生支援機構奨学金説明会
10	2015年2月5日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推薦について (4)将来のキャリアを考える会プログラム (5)4年生進路決定届結果 (6)学生便覧26年度掲載原案（自動車・自転車関係） (7)学生支援機構奨学金貸与継続説明会実施報告
11	2015年3月5日	(1)再試験不正行為学生懲戒 (2)平成27年度学生寮防災訓練日程 (3)学部および学生支援機構奨学金 (4)平成27年度キャリア支援プログラム実施計画案およびキャリアを考える会報告 (5)平成27年度新入生懇談会日程 (6)学生寮防災訓練日程及びマニュアル (7)看護学部駐車場許可

FD評価実施・研究推進委員会

委員長 永井 優子

1. 所管事項

FD評価実施委員会と研究推進委員会は、それぞれ独立した組織であるが、昨年度より大学教員の教育・研究等の資質開発に関連する組織として一体として活動している。

本委員会の所轄事項は、本看護学部委員会設置規程でFD評価実施委員会（看護学務課）4事項、研究推進委員会（看護総務課）3事項が規定され、さらに学部長が必要と認めた事項が加わっている。

- 1) 授業の内容および方法の評価に関する事項
- 2) 教員の資質開発に関する事項
- 3) 教員研修会の企画、実施に関する事項
- 4) 教育内容等の改善のための組織的取り組みに関する事項
- 5) 看護職等との共同研究に関する事項
- 6) 研究活動評価に関する事項
- 7) 研究活動の充実、活性化に関する事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に提示する。委員長、副委員長、および小原、塚本准教授は両委員会を兼任している。

FD評価実施委員会に関連する以下の5事業については委員長を中心に活動した。

- ・学生・教員による授業評価およびマニュアル
- ・FDマップとその活動
- ・FD研修会・講習会の企画・実施
- ・若手教員のための研修会
- ・新任教員のための初任時教育

一方、研究推進委員会については以下の3事項について副委員長を中心に活動した。

- ・看護学部教員共同研究費申請に関する事項
- ・競争的資金（特に科研費）獲得に関する事項
- ・他施設からの研究支援依頼に関する事項

表1 委員会構成員一覧

役割	FD評価実施委員会	研究推進委員会
委員長	永井 優子 教授	
副委員長	野々山 未希子 教授	
委員	小原 泉 准教授、塚本 友栄 准教授	
	村上 礼子 准教授	川上 勝 講師
	平尾 温司 講師	田村 敦子 講師

3. 活動内容

本年度は毎月第2木曜日16:00～17:00を原則に11回開催した（表2参照）。FD評価実施委員会では、授業評価マニュアル、FDマップ活用マニュアル、次年度を目途にe-learningの活用ができるような研修会等の実施、新任教員のための初任時教育（オリエンテーション）の実施を検討した。8月20日（水）午後および9月9日（火）午前に同一内容で開催した夏季Moodle 研修会（講師：本学メディカルシミュレーションセンター浅田義和助教）には、第1回14名、第2回20名が受講し、昨年度までに受講して免除申請をした者9名を含めると、本看護学部専任教員46名のうち未受講者は3名のみとなった。3月17日（火）の午後、今年度FD研究会を「教育におけるe-learningおよびポートフォリオの活用方法」をテーマに東京学芸大学森本康彦准教授を講師に講義と職位別のグループ演習を行い、36名が参加し、好評であった。

研究推進委員会では、看護学部教員共同研究費の申請は最終的に15件に総額3,866,800円を配当し、残額で高機能シュレッダーを購入でき、研究費の適正使用とその報告が円滑にできるように申し合わせ等を修正した。芳賀赤十字病院看護部8件および附属病院看護部から研究支援申請4件について担当教員を決定し、研究発表会へ委員2名を派遣した。また、教員による研究支援の現状を調査し、看護学部の教育研究関連施設からの看護研究支援依頼への対応システムを構築した。競争的資金間接経費としてはMediasite ML Recorderの購入が承認された。さらに8月8日（金）に開催した競争的資金獲得に関する研修会第1回「競争的資金活用による研究推進に向けたヒント」（講師：委員長）には9名、第2回「研究資金獲得のために：評価者はどこを見ているか」（講師：半澤節子教授）には4名が参加し、好評であったが、科研費申請総件数は8件（前年度比4件）にとどまった。

表2 委員会開催日程と審議事項

回	開催日程	審議事項
1	平成26年 4月10日（木）	1. 役割分担と会議開催日程 2. 附属病院看護部からの看護研究支援申請 3. 科学研究費研究補助金交付状況 4. 競争的資金の間接経費への応募 5. 看護学部教員共同研究費 6. 授業評価マニュアル

2	5月9日（木） 13:00－ 14:00	1. 活動方針と役割分担 2. 事業計画 3. 看護学部教員共同研究費の申請結果 4. 附属病院看護部からの看護研究支援の申請結果	7	11月13日（木）	1. 次年度看護学部教員共同研究費申請にかかる申し合わせの変更に関する検討 2. 次年度本看護学部教育研究関連機関への研究支援の実施方法の検討 3. 競争的資金獲得のための研修会実施結果と評価 4. 次年度学生による授業評価の検討 5. 今年度FD研究会の実施計画 6. 次年度FDマップ修正案の検討
3	6月12日（木）	1. 看護学部教員共同研究費の追加申請結果 2. 前年度看護学部教員共同研究費報告書 3. 附属病院看護部からの研究支援申請結果 4. 看護研究支援への多淫黄システムの検討 5. Moodleに関する夏季研修会の実施計画案 6. 今年度FD研修会企画 7. 競争的資金獲得に関する研修会の実施計画案 8. FDマップ活用マニュアルの変更 9. 若手教員のFDニーズ調査 10. 授業評価マニュアルの修正案	8	12月11日（木）	1. 次年度科学研究費の応募状況と評価 2. 次年度以降の本看護学部等教育研究機関への研究支援実施方法の決定 3. 次年度科目責任者による授業評価の検討 4. 今年度FD研究会実施計画 5. 今年度FDマップ修正案の検討 6. 今年度競争的資金間接経費追加申請
4	7月10日（木）	1. 今年度看護学部教員共同研究費の配分 2. 看護学部教員共同研究費申し合わせ事項の修正案 3. 競争的資金獲得のための研修会案 4. 本学部関連施設からの研究依頼 5. 夏季FD研修会の実施案に 6. 若手教員のFD活動 7. FDマップの活用 8. 授業評価	9	平成27年 1月8日（水） 9:00～10:00	1. 他機関から本看護学部教員への研究支援依頼の受け入れ方法の決定 2. 次年度看護学部教員共同研究に関する申し合わせ事項 3. 次年度授業評価マニュアルの検討 4. 今年度FD研究会実施計画 5. 今年度活動評価と次年度活動計画の立案 6. FDマップ活用方法の検討
5	9月11日（木）	1. 看護学部教員共同研究費の平成26年度残額の使用方法 2. 看護学部教育研究関連施設からの看護研究支援 3. 競争的資金の獲得に関する研修会 4. Moodleに関する夏季FD研修会 5. 今後の授業評価 6. FDマップの活用	10	2月12日（木）	1. 他機関からの研究支援依頼の受け入れ 2. 今年度FD研究会の実施計画の決定 3. 次年度授業評価マニュアルに関する意見の集約 4. 今年度活動の評価と次年度計画の立案 5. FDマップ評価の周知
6	10月9日（木）	1. 共同研究費申請にかかる申し合わせ等の変更案 2. 今年度看護学部教員共同研究費残額購シユレツダーの管理 3. 競争的資金獲得のための研修会の実施結果と評価 4. 後期委員会の検討事項に 5. Moodleに関する夏季FD研修会の実施結果と評価 6. 前学期授業評価の結果と評価 7. 学生による講義・演習科目の授業評価票の修正案 8. 今年度FD研究会実施計画	11	3月12日（木）	1. 研究支援依頼の受け入れ 2. 平成26年度後学期授業評価の結果と評価 3. 今年度FD研究会開催状況の確認 4. 次年度委員会活動計画の決定 5. 次年度授業評価マニュアルの決定 6. 競争的資金間接経費追加分申請結果および新規申請物品の検討

広報委員会

委員長 中村 美鈴

1. 所管事項

広報委員会は常設委員会であり、所轄事項（庶務担当部署：看護学務課）は自治医科大学看護学部委員会規程集より、次に示す通りである。

- 1) 広報誌、パンフレット等の作成及び発行に関する事項
- 2) ホームページの作成及び管理に関する事項
- 3) オープンキャンパスの実施に関する事項
- 4) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

構成委員は6名で、表1に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
中村 美鈴 教 授	委員長
宮林 幸江 教 授	副委員長
横山 由美 教 授	委員
角川 志穂 准教授	委員
清水みどり 講 師	委員
平尾 温司 講 師	委員
渡辺 秀男 課 長	事務局
三上 博史 参 事	事務局
湯浅 芳恵 係 長	事務局

3. 活動内容

- 1) 平成26年度事業計画に基づき、次に示す通り、委員会活動を推進した。

(1)基本方針

これまでの国家試験合格率も一つの指標として、平成24年度に改編したカリキュラムの検証・改善等を行う。

(2)学生の受け入れ・支援に関すること

①外部カウンセラーによる学生相談の体制をさらに充実・強化させる。

②学生個々のキャリアニーズに適切に対応するため、附属病院の看護職キャリア支援センター及び同窓会との連携を深める。

③受験生がどのような広報活動に影響を受けて本学を志望し入学しているのか、広報活動の効果を検証する。（今年度入学生およびその保護者・受験生及びその保護者アンケートの実施・分析）

4. 平成26年度の実施事項および担当者について

- 1) 広報誌、パンフレット等の作成および発行に関する事項（角川委員・横山委員）

(1)「Campus Guide」（角川委員・横山委員）

①「Campus Guide2015」（発行・納品・発送）

②「Campus Guide 2016」制作

*平成27年度予算要求までに検討する事項

a. 高校生等を対象とした簡易イメージパンフレットと保護者等を対象とした情報を主体とした詳細パンフレットの2冊にするかどうかの検討

b. 大学パンフレットと看護学部パンフレットをあわせて活用する広報活動

c. 新入生・受験生・保護者のアンケート結果の分析と検討

(2)「ビタミンN」（平尾委員・横山委員，所管は看護総務課 担当：富川主事）

①第11号特集号の編集・7月上旬発行（業者は入札結果により近日決定予定）

原稿提出期限5月12日（月），原稿依頼開始（人選の要再検討）

②平成26年度読者アンケートの実施の検討について

③平成27年度予算要求までに検討する事項

a. 印刷部数・総ページ数等を踏まえた経費

b. アンケート等の実施経費

④第12号企画・制作

*平成27年度予算要求までに検討する事項

a. 中期計画及び今年度事業計画を踏まえた保護者および実習施設等への広報内容

b. 学長コメントの掲載について

c. 本看護学部の1年間がイメージでできる内容の検討

(3)オープンキャンパス周知ポスターの制作（横山委員，清水委員）

パンフレットに同封する「オープンキャンパス2015」および「オープンキャンパス2015」のポスターを4月下旬まで

- に発行した。
- 2) ホームページの作成および管理に関する事項（中村委員長，清水委員）
- (1)看護学部FD評価等を含めた記録物を公開するホームページなどの整備（中村委員長）
- (2)教員データの更新状況の促進と管理（清水委員）
- (3)英語表記に関する検討（中村委員）
- 3) オープンキャンパスの実施に関する事項（中村委員長，宮林副委員長他，全委員）
- (1)第1回オープンキャンパスおよび高等学校進路指導担当を対象とした進学説明会の実施計画の立案と実施評価（中村委員長，他委員）
- (2)第2・3回オープンキャンパス実施計画の立案と修正，実施評価（中村委員長，宮林副委員長，他全委員）
- 参加者は，表2の通りで，生徒の参加者が25年度より，全体で28名増加した。

表2

26年度全体	199名	464名	481名	1,144名
生徒	115名	262名	275名	652名
保護者	84名	202名	206名	492名

- (3)適宜，「看護学部ムービー2014」の制作（平尾委員）
- (4)記念品の検討と協力学生の業務管理（角川委員）
- (5)次年度オープンキャンパスに関する予算要求に関する検討事項（継続）
- ①昼食の無料提供について
- ②ポロシャツ等協力学生の経費，記念品，実施方法等について
- ③新入生，受験生，保護者アンケート結果の分析と検討
- 4) 高等学校等の出前授業・進路説明会への対応（宮林副委員長）
- (1)下野市立南河内第二中学校の授業協力（5月9日；宮林副委員長，5月16日；中村委員長，平尾委員，所管は看護総務課，担当：埴課長）
- ①内容・実施方法の調整（宮林副委員長・中村委員長・埴課長）
- 「法学」選択学生の参加の免除について

- 検討を要する。
- ②4年次学生の出欠確認，交流事業責任者（平尾委員）
- ③中学校担当教員との連絡調整（埴課長，中村委員長）
- (2)指定校訪問（全教員，平成26年度入学試験推薦指定校は近日決定予定，6月以降）
- 初回担当教職員の場合は，経験豊かな教職員との組み合わせで訪問する。
- (3)出前授業・進路説明会の対応（2年目以降の全教員に協力依頼，別紙参照）
- (4)看護学部情報掲載業者web版および雑誌情報の更新・学生への原稿依頼等
- (5)「本看護学部広報活動用パワーポイント」の作成
- 昨年度のオープンキャンパスおよび説明会等で使用したパワーポイントを適宜，修正・加筆して，出前授業等を担当する教員が活用できるように整備する。
- (6)「広報活動担当教員マニュアル」の作成
- 今年度から対応する助教，新任教員，看護基礎科学教員も含めて対応できるように，昨年度作成した「指定校訪問マニュアル（試行版）」について修正・加筆し，制作する。
- (7)受験情報業者主催の広報活動セミナーへの参加

5. 広報委員会 審議事項 表3

- ・委員会開催および所管事業日程（案）：定例開催（第3木曜日 前学期16：30－17：30，9月以降16：00－17：00，特例あり）とした。会議資料は，原則として委員会開催週月曜日17：00までに委員長と湯浅係長に提出して進めた。

表3 平成26年度広報委員会日程および審議事項

回	日程	行事名・審議事項
	4月1日(月) 4月16日(木) 12:10~12:40 16:20~16:30	2・3・4年生広報委員会関連ガイダンス 全学年オープンキャンパス学生募集説明会 1年生広報委員会関連ガイダンス
1	4月17日(木) 16:00~17:00	1. 平成26年度活動内容・計画・役割分担の決定 2. 平成26年度進路担当教諭への説明会の実施(案) 3. 平成26年度第1回オープンキャンパス実施(案) 4. 南河内第2中学校体験学習実施計画(案) 5. 「Campus Guide 2014」進捗状況報告 6. 「ビタミンN」第11号進捗状況報告
	5月9日(金) 5月16日(金)	下野市南河内第2中学校体験学習 1回目 下野市南河内第2中学校体験学習 2回目
2	5月15日(木) 16:30~17:30	1. 平成26年度第2・3回オープンキャンパス実施計画(案) 2. 進路担当教諭への説明会実施計画(案) 3. 看護学部広報活動各担当者マニュアル(案) 4. 各担当の進捗状況の報告
	5月24日(土)	午前 高等学校進路指導担当教諭等への進学説明会 午後 第1回オープンキャンパス
3	6月19日(木) 16:30~17:30 予定	1. 高等学校進路指導担当教員等への進学説明会実施結果と評価 2. 第1回オープンキャンパス実施結果および評価 3. 第2・3回オープンキャンパス実施計画(案) 4. 新入生および保護者アンケート集計結果と分析 5. 各担当の進捗状況の報告
	7月10日(水)	ビタミンN第11号発行予定
4	7月17日(木) 16:30~17:30	1. 第2・3回オープンキャンパス最終調整案 2. 平成26年度予算案の検討 3. 各担当の進捗状況の報告
	7月29日(火) 8月22日(金)	第2回オープンキャンパス 第3回オープンキャンパス
5	9月16日(火) 16:00~17:00	1. オープンキャンパス実施評価 2. 教員情報の掲載状況の確認結果 3. 各担当の進捗状況の報告
6	10月16日(木) 15:00~16:00	1. 適宜、オープンキャンパス実施評価 2. 「ビタミンN」第11号評価 3. 「Campus Guide 2014」の評価 4. 看護学部ムービー2014の評価 5. 各担当の進捗状況の報告
7	11月20日(木) 16:00~17:00	1. 「ビタミンN」第12号企画・編集方針(案)

		2. 「Campus Guide 2016」企画・編集方針(案) 3. 各担当の進捗状況の報告
8	12月18日(木) 16:30~17:30	1. 平成26年度オープンキャンパス等の企画(案) 2. 各担当の進捗状況の報告・検討
9	2月19日(木) 16:00~17:00	1. 平成26年度広報活動の評価 2. 各担当の進捗状況の報告・検討 3. 平成27年度広報活動計画(案) 4. 各担当の進捗状況の報告・検討

編集委員会

委員長 本田 芳香

1. 所管事項

本委員会は、自治医科大学看護学部年報、自治医科大学大学院看護学研究科年報および自治医科大学看護学ジャーナルの刊行を所轄する。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に示すとおりである。

表1 構成員と役割

役 割	氏 名
委員長	本田教授
副委員長	大塚教授
年報の編集・刊行担当	大塚教授 飯塚講師
看護学ジャーナル担当	本田教授 小原准教授 塚本准教授 千葉講師

3. 活動内容

本委員会は、今年度は表2に示すとおり3回の委員会を開催し、平成26年度年報の編集内容の検討、執筆要領の記載方法の変更および看護学ジャーナル規定の一部改定について検討をおこなった。

表2 委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2014年4月17日	年間方針、年間計画、役割分担 年報の編集内容の一部変更・追加 検討
2	2014年10月10日	看護学ジャーナル投稿論文審査規 程（一部修正案）
3	2015年2月19日	看護学ジャーナル投稿論文の採否 と原稿の種類の決定 年報の編集他

自治医科大学看護学部年報（第12号）は、自治医科大学大学院看護学研究科年報（第8号）とあわせて発行した。編集内容は、年報第13号では、特別報告として、平成25年度より文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」が本看護学部、看護学研究科が関わる先駆的事業の取り組みを執筆していただいた。また活動報告として、大学院看護学研究科実践看護学分野38単位の認定を5領域が受けた活動を執筆していただいた。

自治医科大学看護学ジャーナル（第12巻）は、

投稿論文は計3編、内訳は総説1編、資料2編であった。1編につき1名の担当編集委員を選定、2名の査読者が論文内容の査読にあたった。

さらにより質の高い看護学ジャーナル編集を目指し、看護学ジャーナルの投稿論文審査規程の投稿論文査読方法の一部見直しをおこなった。

なお、自治医科大学看護学部年報（第12号）および自治医科大学大学院看護学研究科年報（第8号）は、国立国会図書館をはじめ、政府関係機関、学外の実習関連施設、全国の看護系大学、栃木県関係、県内の看護系学校、総合病院などへ送付した。

国家試験対策委員会

委員長 渡邊 亮一

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学生や卒業生が国家試験に合格するように、学習環境を整え、学習相談などの支援を行うことである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。また、本委員会の下部組織として設置されたワーキンググループの構成員を表2に示す。委員会活動は、委員会の委員とワーキンググループの委員とが協力して行った。

表1 委員会の構成員と役割

氏 名	役 割
渡 邊 亮 一 教 授	委員長
野々山 未希子 教 授	副委員長
北 田 志 郎 准教授	委 員
浜 端 賢 次 准教授	委 員
島 田 裕 子 講 師	委 員
長谷川 直 人 講 師	委 員

表2 ワーキンググループの構成員

氏 名	役 割
荒 川 さゆり 助 教	委 員
安 藤 恵 助 教	委 員
石 井 慎一郎 助 教	委 員
小 西 克 恵 助 教	委 員
湯 山 美 杉 助 教	委 員

3. 活動内容

本年度は、表3に示すような議題で計8回の委員会を開催した。

委員会の具体的な活動としては、まず国家試験受験に向けてのガイダンスを3回実施した。また、これ以外に、3年生を対象にしたガイダンスを1回実施した。次に、国家試験対策のための模擬試験を、保健師については2回、助産師については2回、看護師については3回実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて、学生の個別面接・指導を行った。個別面接・指導は、学生を5グループに分け、それぞれのグループを本委員会の委員1名とワーキンググループの委員1名とがペアを組んで担当することとし、学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また、国家試験出題科

目を担当する他の教員にも協力を要請し、2014年9月および2014年12月から2015年1月にかけて、国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備については、学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに、受験参考書や問題集を置き、学生がいつでも利用できるようにした。また、業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパンフレットを置き、学生が国家試験に備えるための便宜を図った。

2014年度 of 国家試験は、助産師が2015年2月19日（木）に、保健師が2015年2月20日（金）に、看護師が2015年2月22日（日）に実施され、その結果は表4に示すとおりであった。2014年度の全国平均の合格率は、保健師が99.4％、助産師が99.9％、看護師が90.0％であった。本学部の合格率は、いずれも全国平均を上回り、保健師と助産師の合格率は100％であった。次年度以降も高い合格率を維持できるように、引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3 2014年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2014年4月17日	・委員の紹介 ・所管事項について ・年間スケジュールについて ・4年生に対する国家試験対策ガイダンスの報告 ・低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果について ・担当学生の個別面接の実施について ・国家試験対策模擬試験のマニュアルについて
2	5月8日	・国家試験対策委員会の開催日について ・国家試験対策模擬試験の試験監督について ・国家試験模擬試験実施マニュアルについて ・担当学生の個別面接の経過、結果報告
3	7月10日	・第1回看護師国家試験模擬試験の実施状況ならびに結果について ・9月に実施する国家試験対策ゼミについて ・保健師助産師看護師国家試験問題Web公募について ・4年生に対する国家試験対策ガイダンスについて ・担当学生の近況について

4	9月11日	・保健師・助産師・看護師国家試験の施行（官報）について ・国家試験受験説明会の日程について ・国家試験対策模擬試験の日程等について ・保健師助産師看護師国家試験の公募問題の作成状況について ・担当学生の近況について
5	11月20日	・保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の受験状況および受験結果について ・国家試験出願手続説明会等の開催結果について ・3年生に対する国家試験ガイダンスについて ・国家試験対策ゼミについて ・担当学生の近況について
6	12月11日	・今後の模擬試験の予定について ・理事長特別講話及び国家試験受験説明会について ・担当学生の近況について
7	2015年1月29日	・保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の受験状況および結果（成績）について ・国家試験対策についてのアンケート調査について ・次年度に向けた国家試験対策推薦図書について ・担当学生の近況について
8	3月25日	・第101回保健師・第98回助産師・第104回看護師国家試験の合格発表について ・国家試験対策についてのアンケート調査について ・次年度に向けた国家試験対策推薦図書リストについて ・新4年生に対する国家試験対策のガイダンスについて

表4 2014年度保健師助産師看護師国家試験の結果

区 分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
自治医科大学 看護学部	保健師	103	103	100.0
	助産師	7	7	100.0
	看護師	107	105	98.1
全 国	保健師	16,622	16,517	99.4
	助産師	2,037	2,034	99.9
	看護師	60,947	54,871	90.0

臨地実習指導研修委員会

委員長 半澤 節子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、臨床実習指導研修会を企画、実施、評価するという一連の業務を担当する。平成18年度に第1回目の臨床実習指導研修会を開催し、平成26年度には9回目の開催となった。

本研修会の目的は、自治医科大学看護学部教育の理念を踏まえ、臨地実習の場において教員と臨地実習指導者とが相互理解を深め、協力して一貫した指導を提供できることとしている。そのため、以下の3つの目標を設定している。

- ① 本看護学部教育理念に基づいた看護学実習の目的、目標を理解する。
- ② 本看護学部の学生の特徴を踏まえた臨地実習指導について考える。
- ③ 臨地実習の場における教育支援方法について考える。

受講対象者は、看護師免許取得後、3年以上の看護実務経験を有する、現在看護学部の臨地実習を行う施設に勤務している、研修の全日程に参加可能という3つの条件を満たす者としている。

本研修会は2日間のプログラムにより構成されている。両日ともに午前の講義、午後のグループワークとなっており、グループワークでは、臨地実習指導に際して起こりやすい状況設定についてディスカッションするなど、実践的な内容のプログラムとしている。なお、本研修会を受講した参加者には、修了証を授与している。

2. 委員会の構成

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
半澤 節子 教 授	委員長
宮林 幸江 教 授	副委員長
村上 礼子 准教授	
里光やよい 准教授	
樺山 定美 助 教	
若澤 弥生 助 教	
看護総務課 大石課長補佐、富川主事	事務局

3. 活動内容

本委員会では、研修会の企画、実施、評価の一連の業務を進めるため、年5回の委員会を開催した。

平成26年度の参加者は62人であり、内訳は、附属病院42人、とちぎ子ども医療センター12人、さいたま医療センター6人、外部実習施設2人であった。臨地実習指導の経験の有無では、「あり」が18人（29%）と、今後実習指導を予定している者が多くを占めていた。

また、参加者によるアンケートの結果によると、「研修内容が全体として満足できた」（74.1%）、「臨地実習指導の基本が理解できた」（83.8%）、「看護実践の場における教育支援方法の実際を学ぶことができた」（72.5%）、「グループワークの目的が明確であった」（70.9%）、「研究環境が適当であった」（72.5%）などの回答が得られており、参加者の評価は良好である。学内講師、附属病院看護部からの講師とともに、臨地実習の具体的な話題に基づき、参加者の主体的な検討を促す展開がされていた。

次年度も、引き続き、講義、グループワークともに充実を目指して企画、実施、評価を行う。

表2 2014年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2014年4月25日	1. 年間計画の検討 2. 研修会の案内、申込み方法 3. プログラムと役割分担
2	2014年8月28日	1. アンケート 2. プログラムと当日の役割分担 3. 参加者の申込み状況
3	2014年9月18日	1. 参加者の内訳、アンケートの集計結果 2. 研修会当日の担当者からの報告 3. 次年度の課題の検討
4	2014年11月4日	1. 平成27年度マニュアルについて 2. 事前準備計画について 3. プログラムと役割分担について
5	2015年2月10日	1. 平成27年度プログラムについて 2. マニュアルについて 3. 附属病院看護部の講師候補者について

入試実施委員会

委員長 渡邊 亮一

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、入学試験実施に関することであり、具体的には、入試実施説明会に関すること、入試実施日の役割分担・実施手順に関することである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は、表1のとおりである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
渡邊 亮一 教 授	委員長
横山 由美 教 授	副委員長
浜端 賢次 准教授	委 員
飯塚 秀樹 講 師	委 員
清水みどり 講 師	委 員
千葉 理恵 講 師	委 員

3. 活動内容

本年度は、表2に示すような議題で計3回の委員会を開催した。

第1回の委員会では、2015年度の本学部の入学試験の日程を確認し、それに併せて入試実施マニュアルを作成し、入試実施説明会を開催することを確認した。

第2回の委員会では、推薦入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い、問題がないことを確認した。作成した推薦入学試験実施マニュアルを用いて、2014年11月13日（木）に入試実施説明会を開催し、推薦入学試験を11月15日（土）に実施した。

第3回の委員会では、一般入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い、問題がないことを確認した。作成した一般入学試験実施マニュアルを用いて、2015年1月22日（木）に入試実施説明会を開催し、一般入学試験（一次試験）を1月31日（土）に、一般入学試験（二次試験）を2月11日（水）に実施した。

入試実施マニュアルを作成して入試実施説明会を開催し、準備を行ったので、推薦入学試験、一般入学試験とも、支障なく実施できた。

表2 2014年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2014年4月25日	・入試実施委員会の委員等の構成について ・入試実施委員会の所管事項について ・平成27年度看護学部入学試験関係の日程について ・平成27年度看護学部入学試験における変更点について ・平成27年度看護学部入試実施マニュアルで変更（検討）すべき事項について
2	10月16日	・平成27年度推薦入学試験実施マニュアルについて
3	2015年1月13日	・平成27年度一般選抜入学試験実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学、休学、退学、転学、転入学、除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長、専攻分野主任教授、研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗	委員長（研究科長）※
半澤 節子	委 員（幹事長）※※
大塚 公一郎	委 員
永井 優子	委 員
中村 美鈴	委 員 ※※※
成田 伸	委 員
野々山未希子	委 員
本田 芳香	委 員
宮林 幸江	委 員
横山 由美	委 員
渡邊 亮一	委 員

※地域看護管理学分野主任兼ねる

※※広域実践看護学分野主任兼ねる

※※※実践看護学分野主任兼ねる

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により、看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため、表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2014年度の審議事項

回	開 催 日	審議事項
1	5月8日	- 平成26年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定について - 平成26年度大学院看護学研究科既修得単位の認定について - 博士後期課程の科目等履修生について

		- 平成26年度追加募集及び平成27年度看護学研究科科目等履修生の募集要領について - 研究計画審査について
2	5月22日	- 平成27年度自治医科大学大学院看護学研究科前期課程・後期課程（科目等履修生）学生募集要領について - 平成26年度博士前期課程科目等履修生開講科目一覧表（追加募集）について - 平成27年度看護学研究科予算要求について
3	7月3日	- 平成27年度看護学研究科出願資格認定試験及び入学試験の実施（案）について - 研究計画審査について
4	9月4日	- 平成27年度大学院看護学研究科出願資格認定試験合否判定について - 平成27年度大学院看護学研究科（博士前期課程）入学試験実施について - 看護学研究科博士前期課程学位論文審査基準の検討について - 博士後期課程の担当教員の資格について - 看護学研究科倫理審査について
5	9月25日	平成26年度科目等履修生（追加募集）の決定について
6	10月2日	- 平成27年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験合否判定について - 平成26年度看護学研究科科目等履修生単位取得（前期課程）認定について - 平成26年度看護学研究科第3回合同研究セミナーについて - 平成27年度看護学研究科（博士前期課程）時間割について - 平成26年度看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員について - 平成26年度看護学研究科博士前期課程（看護学）学位申請要領について
7	12月15日	- 平成26年度論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について - 平成26年度看護学研究科（博士前期・博士後期）論文審査実施要領について - 看護学研究科博士前期課程学位論文審査基準について - 看護学研究科博士前期課程の倫理審査について

8	1月8日	・平成27年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程について ・平成27年度看護学研究科研究計画審査会（博士後期課程）日程について ・平成28年度看護学研究科入学試験日程について ・科目等履修生募集日程（平成27年度追加募集・平成28年度募集）について ・平成27年度看護学研究科学年暦について ・平成27年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験実施マニュアルについて ・自治医科大学大学院看護学研究科における学位に関する細則について		・平成27年度看護学研究科入学生の研究指導教員の決定について ・平成27年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について ・平成27年度看護学研究科修士（看護学）・博士（看護学）学位申請日程について ・平成27年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて ・平成27年度看護学研究科委員会議事日程について ・平成27年度看護学研究科運営組織について ・規程の一部改正について ・長期履修期間短縮申請について
			13	3月26日 ・休学願について ・平成27年大学院看護学研究科研究生の受け入れについて ・大学院教員の任用について ・平成27年度大学院看護学研究科非常勤講師任用について
9	2月5日	・平成26年度博士前期課程論文審査（口頭試問）の結果について ・平成26年度学位論文発表会スケジュールについて ・平成27年度博士前期課程科目等履修生の決定について ・平成27年度大学院看護学研究科非常勤講師任用について ・大学院教員の任用について ・平成27年度看護学研究科授業科目責任者について ・平成27年度看護学研究科時間割について ・自治医科大学大学院看護学研究科研究生受入規程の一部改正について ・研究計画支援委員会の運営について		
10	2月16日	・平成26年度看護学研究科修士（看護学）学位論文審査最終試験の判定について ・自治医科大学大学院学則の一部改正について		
11	2月19日	・平成27年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験合否判定について ・平成26年度看護学研究科（博士前期・後期課程）修得単位の認定について ・平成26年度看護学研究科（博士前期）修了判定について		
12	3月5日	・平成27年度看護学研究科博士後期課程科目等履修生合否判定について ・平成26年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生単位修得（後期履修）について		

研究科委員会幹事会

幹事長 半澤 節子

1. 所管事項

研究会委員会幹事会の所管事項は、自治医科大学大学院看護学研究科委員会幹事会運営内規に基づき、以下の内容を審議することを定めている。

- (1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
- (2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
- (3)その他大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2. 委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割について、表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗 教授	研究科長 地域看護管理学分野主任
半澤 節子 教授	幹事長 広域実践看護学分野主任
中村 美鈴 教授	実践看護学分野主任 広報委員長
永井 優子 教授	FD評価実施委員長
成田 伸 教授	入試実施委員長
本田 芳香 教授	カリキュラム委員長
看護学務課 佐藤	事務局担当

3. 活動内容

平成26年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催した。平成26年度の審議事項の概要を表2に示した。

研究科委員会幹事会の所管事項が適時審議されるよう、幹事会の定例会における議題を年度当初に設定し、必要な検討事項について各委員会において審議を行い、幹事会ではその内容に基づいて委員長より報告がされ、審議した。

表2 2014年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2014年4月22日	1. 平成26年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定について 2. 既修得単位の認定について 3. 平成27年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項について 4. 平成26年度追加募集及び27年度看護学研究科科目等履修生の募集要項について 5. 平成27年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項、科目等履修生募集要項のホームページへの掲載について 6. 平成26年度看護学研究科博士課程説明会の実施について
2	2014年5月20日	1. 看護学研究科博士前期課程学位論文審査基準の検討について 2. 看護学研究科学生の研究費の助成について 3. 博士後期課程の担当教員の資格について 4. 平成27年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項について 5. 平成26年度追加募集及び27年度看護学研究科科目等履修生の募集要項について 6. 博士後期課程の入試の選抜方法の変更について
3	2014年6月24日	1. 平成27年度看護学研究科出願資格認定試験ならびに入学試験の実施要領（案）について 2. 平成27年度大学院看護学研究科（博士前期課程）入学試験のマニュアルについて 3. 看護学研究科博士後期課程学生の研究助成について
4	2014年7月22日	1. 平成27年度大学院看護学研究科予算（案）について 2. 博士後期課程の担当教員の資格について 3. 大学院看護学研究科FD研究会について
5	2014年9月22日	1. 平成26年度大学院看護学研究科科目等履修生単位取得（前期課程）認定について 2. 平成26年度第3回合同研究セミナーについて 3. 平成27年度博士前期課程時間割について

		4. 大学院広報パンフレット2016構成案について 5. 学位論文の公表について			2. 平成27年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について 3. 平成27年度看護学研究科学位申請日程について 4. 平成27年度看護学研究科非常勤講師任用審査について 5. 看護学研究科研究生に係るオリエンテーション資料について 6. 平成27年度大学院要綱について 7. 規程の改正について
6	2014年10月16日	1. 研究生の受け入れについて 2. 今後の博士前期課程の倫理審査について 3. 平成27年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験実施マニュアル（面接評価票）について 4. 出願資格認定試験・博士前期課程入学試験の面接評価票について			
7	2014年11月25日	1. 平成26年度論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）実施方法について 2. 平成27年度看護学研究科科目責任者（博士前期・博士後期）の決定について 3. 平成27年度看護学研究科（博士後期課程）時間割について 4. 平成26年度看護学研究科（前期・後期）論文審査実施要領について 5. 博士前期課程の論文審査基準について 6. 大学院看護学研究科FD活動について 7. 今後の博士前期課程の倫理審査について 8. 大学院要綱（シラバス）の作成について	11	2015年3月24日	1. 平成27年度看護学研究科委員会幹事会審議事項について 2. 大学院看護学研究科教員の任用等について 3. 平成27年度看護学研究科非常勤講師任用審査について
8	2014年12月22日	1. 平成27年度看護学研究科看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程について 2. 平成28年度看護学研究科入学試験日程について 3. 平成28年度看護学研究科科目等履修生の入学試験日程について 4. 平成27年度看護学研究科学年暦について 5. 研究生の受け入れについて 6. 看護学研究科における学位に関する細則について			
9	2015年1月20日	1. 平成27年度科目等履修生の決定について 2. 博士後期課程担当の任用等について 3. 平成27年度非常勤講師の任用について 4. 研究生の受け入れについて 5. 平成27年度大学院要綱について 6. 授業科目の配当年次の記載について			
10	2015年2月24日	1. 平成27年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて			

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 渡邊 亮一

1. スタッフの紹介

教授 渡邊 亮一

教授 大塚 公一郎

准教授 北田 志郎

講師 飯塚 秀樹

講師 平尾 温司

2. 教育の概要

1) 看護基礎科学に関する教育概要

(1) 情報学（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(2) 統計学（2年次前学期1単位：必修）

科目責任者である渡邊が15時間を担当して講義を行った。

(3) 統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(4) 心理学（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

(5) 人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が5時間、高村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が10時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(6) 倫理学（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である大塚が15時間を担当して講義を行った。

(7) 文化人類学入門（1・4年次後学期2単位：選択）

科目分担者である青木啓将非常勤講師（早稲田大学人間科学部教員）が12時間、砂井紫里非常勤講師（早稲田大学人間科学部教員）が12時間、科目責任者である大塚が6時間を担当して講義を行った。

(8) 病態学概論（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

(9) 病態学各論（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

(10) 臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である北田が7時間、紺野 啓非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間、松浦克彦非常勤講師（本学さいたま医療センター講師）が2時間、菊地 透非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

(11) 基礎英語（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(12) 医療英語コミュニケーション（1・2年次後学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(13) 医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(14) 人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が28時間、野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が2時間を担当して講義を行った。

(15) 人体の構造と機能Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が28時間、野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が4時間、加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学保健科学部教授）が8時間を担当して講義および実習を行った。

(16) 免疫学（1年次後学期2単位：必修）

滝 龍雄非常勤講師（元北里大学准教授）が18時間、補助科目責任者である平尾が12時間を担当して講義を行った。

2) 看護基礎科学以外の担当教育概要

(1) 国際看護論（4年次前学期1単位：必修）

飯塚は、1時間の講義を担当した。

(2) 看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）

渡邊、大塚、北田は、それぞれ30時間の演習を担当した。

(3) 文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

渡邊、飯塚はそれぞれ2時間の講義を、飯塚、平尾はそれぞれ10時間の演習を担当した。

(4) 研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

渡邊は、2時間の講義を担当した。

(5) へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：

選択)

北田は、2時間の講義と6時間の演習を担当した。

(6)対象の理解実習（1年次後学期2単位：必修）

渡邊、大塚、北田、飯塚、平尾は、それぞれ8時間の演習を担当した。

(7)公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）

渡邊、大塚、北田、飯塚、平尾は、それぞれ6時間の演習を担当した。

(8)大塚は、本学医学部3年生を対象に、2時間の社会精神医学の系統講義を行った。

(9)大塚は、本学医学部4年生を対象に、精神科臨床実習クルズ「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。

(10)飯塚は、本学医学部1年生を対象に、12時間の「医療英語コミュニケーション」の講義を行った。

(11)平尾は、本学医学部1年生を対象に、96時間の解剖学実習を担当した。

(12)平尾は、本学医学部2年生を対象に、12時間の神経解剖学実習を担当した。

3. 研究の概要

(1)上級医療情報技師の育成に関する研究

渡邊は、一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会が認定する資格である「医療情報技師」および「上級医療情報技師」の育成にかかわっているが、そのなかで「上級医療情報技師」の育成制度や資格制度に関連した研究を行った。

(2)自閉症スペクトラムの精神病理学的研究

大塚は、医学部総合教育部門の稲垣 諭教授とともに、自閉症スペクトラムの精神分析学的研究を行った。

(3)日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援

大塚は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「レジリエントなコミュニティ形成をめざして－在日ブラジル人の震災経験を踏まえた支援の検討－」（研究代表者：野崎章子 千葉大学）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(4)日系ブラジル人の多文化間精神医学的研究

大塚は、本学附属病院精神科において、日系ブラジル人を中心とした外国人患者の診療にあたるとともに、多文化間精神医学的研究を行った。

(5)腎透析患者の精神障害、腎移植ドナーのメン

タルヘルスについての研究

大塚は、本学附属病院腎臓センター外科部門の依頼のもと、同病院精神科医師である海野まみとともに生体腎移植のドナー候補者の意思決定を確認するための面接を行うとともに、サイコネフロロジーの研究を行った。

(6)在宅医療における身体科医と精神科医の連携モデル構築に関する研究

北田は、研究代表者として、渡邊、大塚、あおぞら診療所松川二三子とともに、勇美記念財団の研究助成金を受け、「在宅医療における身体科医と精神科医の連携モデル構築に関する研究」というテーマで、研究を実施した。

(7)在宅医療における東アジア伝統医学の位置づけに関する研究

北田は、在宅医療における東アジア伝統医学、特に漢方薬治療の位置づけと効果に関する研究を行った。

(8)在宅医療における医療－介護連携に関する研究

北田は、認知症グループホームへの訪問診療を通じて医療・介護連携に関する研究を行った。

(9)逐次通訳アプローチによる外国語指導法の効果とその汎用性の確立にむけた基礎的研究

飯塚は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））の補助を受け、「逐次通訳アプローチの汎用性追求とその継続的研究基盤の確立」というテーマで、通訳訓練法を応用した英語教育・医療英語教育に関する研究を行った。

(10)ハシブトガラスの尾腺および盲腸の形態に関する研究

平尾は、宇都宮大学農学部の杉田昭栄教授、総合研究大学院大学学融合推進センターの塚原直樹助教らとハシブトガラスの尾腺および盲腸の形態に関する研究、鳴管筋の神経支配に関する研究を行った。

4. その他

(1)渡邊は、平成25年度に引き続いて、財団法人日本医療機能評価機構の評価調査者として、第三者病院機能評価事業に参画した。

(2)渡邊は、日本医療福祉設備学会理事ならびに総務委員会委員長、日本医療情報学会理事・評議員ならびに利益相反委員会委員長、日本診療情報管理学会評議員などを務めた。

(3) 渡邊は、第40回日本診療情報管理学会学術大会において、一般演題の座長を務めた。

(4) 渡邊は、第34回医療情報学連合大会（第15回日本医療情報学会学術大会）のプログラム委員を務めた。

(5) 渡邊は、非常勤講師として、女子栄養大学栄養学部保健栄養学科の「情報科学概論」の講義（30時間）を、一般社団法人南埼玉郡市医師会久喜看護専門学校の「看護学概論Ⅲ（看護研究）」の講義および演習（30時間）を担当した。

(6) 大塚は、平成21年1月より多文化間精神医学会理事、同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。

(7) 大塚は、平成22年10月より日本精神病理学会評議員を務めている。

(8) 大塚は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。

(9) 北田は、平成22年9月より日本中医学会評議員を務めている。

(10) 北田は、平成24年度より介護支援専門員実務研修受講試験委員を務めている。

(11) 北田は、非常勤講師として、茨城県結城看護専門学校の「精神看護学援助論Ⅱ」の講義（2時間）を担当した。

(12) 北田は、独立行政法人地域医療機能推進機構本部研修センターの認定看護師教育課程：認知症看護学科「認知症病態看護論」の講義（7時間）を担当した。

(13) 北田は、第14回日本外来精神医療学会のプログラム委員、およびシンポジウムの座長を務めた。

(14) 北田は、第4回日本中医学会において、一般演題の座長を務めた。

(15) 飯塚は、公益財団法人全国商業高等学校協会第30回英語スピーチコンテスト決勝で司会を務めた。

(16) 飯塚は、第40回埼玉商業教育研究会英語スピーチコンテストで審査員を務めた。

(17) 飯塚は、栃木県立小山西高等学校において、「英語を学ぶことの大切さ～効果的な学習方法～」という演題で講演を行った。

(18) 飯塚は、文部科学省後援ELEC（一般財団法人英語教育協議会）夏期英語教育研修会において、「通訳訓練法に基づいたConsecutive Interpreting Approachの指導法」という演題で講演を行った。

(19) 飯塚は、栃木県立小山西高等学校の学校評議員を務めた。

(20) 飯塚は、本学看護学部とブータン王国Faculty of Nursing and Public Health, University of Medical Science of Bhutanとの大学間協定を締結する際に、通訳者／学生引率者として、ブータン王国を訪問した。

(21) 平尾は、非常勤講師として、宇都宮大学農学部「動物形態学」の講義（30時間）を担当した。

基礎看護学

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香

准教授 里光やよい

助教 飯塚由美子

若澤 弥生

岩永麻衣子

湯山 美杉

2. 教育の概要

基礎看護学科目群では、発達段階に合わせたすべての人を意識し、4年間で学ぶべく看護学の基礎を、また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

1) 基礎看護学に関する教育概要

(1) 看護学概論（1年次前学期2単位：必修）

担当：本田芳香：人間・健康・環境・看護の主な概念、看護理論、歴史的変遷、法律・倫理及び看護活動の場と保健医療福祉チームにおける看護の役割・機能など、今後看護が目指す概要を教授する。

(2) 実践看護学概論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特にインタビュー技術及び観察技術をグループワークを導入しながら学生自身の日常生活と関連させながら教授した。

(3) 看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位・1単位必修）担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン，基本的大意に関し講義と演習を進めた。

(4) 看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位・1単位必修）担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し，食事，排泄，清潔等の講義と演習を進めた。

(5) 看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位・1単位必修）担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し，滅菌操作，採血等の検査，与薬に関連する点滴，筋注，皮下注等の講義演習を行った。

(6) 看護技術演習Ⅳ（2年次前学期1単位必修）担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員，フィジ

カルアセスメント，看護過程の展開を教授し，学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

(7) 対象の理解実習（1年次前学期1単位必修）

担当：里光やよい，本田芳香，他基礎看護学教員全員：附属病院の病棟・外来に来訪する対象の理解を人間・健康・環境・看護の視点から実習を通して学ぶ。

(8) 日常生活援助実習（2年次後学期2単位必修）：本田芳香，他基礎看護学教員全員，附属病院で入院している患者を初めて受け持ち，日常生活に関わる援助を実習を通して学ぶ。

(9) その他：「がん看護学」は，本田が担当。「看護トピックス」は里光，「看護基礎セミナー」は，基礎看護学教員全員が担当した。「看護研究セミナー」は，准教授以上（本田，里光）を中心に助教全員（飯塚，若澤，岩永，湯山）が担当した。「総合実習・総合セミナー」は，准教授以上（本田，里光）を中心に，助教全員（飯塚，若澤，岩永，湯山）が担当した。

3. 研究の概要

1) 研究プロジェクトの参加（研究代表者）

①岩永は，自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「終末期がん患者とその家族の意思決定支援に関するリフレクティブプログラム」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田，小原，飯塚，附属病院 渡辺芳江，竹野井さとみ，境野博子であった。

②若澤は，自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「看護学実習の教育的アプローチの視点から捉えた実習指導スキルの検討」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本田，里光，飯塚，湯山，岩永，中塚，附属病院大貫紀子，佐藤里美であった。

③飯塚は，在宅医療助成，勇美記念財団研究費による研究課題「訪問看護師の在宅看取りのケアの経験」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田であった。

2) 研究プロジェクトの参加（分担研究者）

①本田は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「「がん臨床試験についての患者の理解度評価に関する研究」（研究代表者：小原泉）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

②本田は，厚生労働省科学研究費補助金 地域医

療基盤開発推進研究事業「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」（研究代表者：春山早苗）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

③本田は、文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発事業」テーマ1「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」（研究代表者：春山早苗）の分担研究者として参加し、同研究を実施した。

④本田は、在宅医療助成、勇美記念財団研究費による研究課題「訪問看護師の在宅看取りのケアの経験」（研究代表者：飯塚由美子）の分担研究者として参加し、同研究を実施した。

3) 研究業績録（学会発表）

1) 里光やよい, 本田芳香, 湯山美杉, 飯塚由美子, 岩永麻衣子, 若澤弥生, 浅田義和; 看護過程演習にマインドマップを活用したアセスメント力の変化, 第6回医療教授システム学会, 第6回医療教授システム学会総会プログラム・抄録集; 41p, 2014

2) 川上 勝, 村上礼子, 中村美鈴, 里光やよい, 柴山真里; 看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割ー病棟急変場面における声かけー第6回医療教授システム学会, 第6回医療教授システム学会総会プログラム・抄録集; 39p, 2014

3) 村上礼子, 川上 勝, 柴山真里, 里光やよい, 小林京子, 中村美鈴; 看護学生対象の効果的なICLSコース技術習得の試みについて, 日本看護学教育学会第24回学術集会, 日本看護学教育学会第24回学術集会講演集109p, 2014

4) 湯山美杉, 本田芳香, 里光やよい, 若澤弥生, 飯塚由美子, 岩永麻衣子; 看護対象への関心を育むことを目的に作成した看護過程紙上事例を用いた学習の有用性の検討. 日本看護学教育学会第24回学術集会講演集; 143p, 2014.

5) 飯塚由美子, 本田芳香, 里光やよい, 山本真由美, 若澤弥生, 岩永麻衣子, 湯山美杉; 急性骨髄性白血病看護のナラティブな語りを活用した紙上事例の教材開発. 日本がん看護学会誌 (0914-6423) 28巻Suppl. p197, 2014..

6) 飯塚由美子, 本田芳香; 外来で継続治療を受けながら疼痛管理をするがん患者への専門看護師のチーム調整プロセス. 第18回日本在宅ケア学会学術集会, 183p, 2014

7) 押江香奈, 本田芳香, 小原泉; 終末期を迎え

た若年性がん患者の家族に対するケアリング, 第19回日本緩和医療学会学術集会, 146p, 2014.

4. その他

1) 里光やよい: Medical Library 書評・新刊案内 看護教員ハンドブック 古橋洋子 編 医学書院 週間医学界新聞 第3073号 2014年4月21日

2) 若澤弥生: 2014年度日本看護学教育学会研究助成: 看護系大学の教員が行う臨地実習時の指導行動に関する研究

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗
准教授 鈴木久美子
准教授 塚本 友栄
助教 島田 裕子
助教 関山 友子
助教 青木さぎ里
助教 江角 伸吾

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し、公衆衛生看護活動の展開に必要なとなる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して、主に行政に所属する保健師の活動を素材にして、教育にあたっている。担当科目は、実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修）、健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修）、健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修）、公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修）、公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修）、公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）、地域看護管理論（4年次前学期1単位：必修）であり、本学科目教員全員で担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：島田が科目責任者、春山、鈴木、塚本、関山、江角も担当。②「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：鈴木、関山、江角が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：鈴木が科目責任者、青木も担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：塚本、島田、青木が担当。⑤「研究セミナー」（3年次後学期1単位：必修）：塚本が科目責任者、塚本は講義・演習、春山は講義担当。⑥「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者、塚本、江角も担当。⑦老年在宅看護実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が1クール担当。⑧「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑨「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で

16名を担当。実習場所は下野市4名、群馬県吾妻郡中之条町六合地域4名、日光市足尾地域5名、県内訪問看護ステーション3名。⑩「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で学生16名を担当。春山2名、鈴木3名、塚本2名、島田3名、関山2名、青木2名、江角2名の学生を指導。学生は、第一子を育てる母親の心理的变化、「親子教室」に参加する母子のヘルスニーズ、糖尿病予備軍が生活習慣を改善する要因、中山間地域で暮らす後期高齢者の自然災害に対する意識、山間地域における地域ボランティアのサロンに対する思い、高齢者の閉じこもりの影響要因と保健活動の検討、認知症介護家族の介護生活への思い等に関する看護研究に取り組んだ。⑪「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では、鈴木が責任教員となり、前学期に「地域における健康危機管理活動の展開方法」をテーマに実施。本学科目教員全員で学生15名を担当。⑫その他：鈴木、青木は「へき地の生活と看護」担当者とともに、履修者32名、夏季へき地体験研修者5名、地域医療研修者3名、計40名の研修を12カ所の施設において企画・実施した。

3. 研究の概要

1) 本学部共同研究費「町村保健師への新任期現任教育における保健所保健師の役割」：青木が研究代表者となり、本学科目教員全員で栃木県保健師とともに実施。
2) 本学部共同研究費「卒後2年目研修のあり方のための基礎的研究」：江角が研究代表者となり、関山及びさいたま医療センター看護師とともに実施。
3) 本学部共同研究費「特定機能病院における入院高齢者の退院・在宅療養支援の実施状況の評価ー電子カルテデータを用いた退院調整加算評価前後の比較ー」：春山が研究代表者となり、大学院看護学研究科博士後期課程学生及び附属病院臨床教員とともに実施。
4) 平成26年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「健康格差を縮小しソーシャルキャピタルの醸成を促進する市町村保健師の地区管理」：春山が研究代表者、鈴木、塚本、島田、関山、青木、江角は研究分担者。
5) 平成26年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「県外に避難し

た者を対象とした避難所活動のための自治体保健師の活動指針の作成」：島田が研究代表者，鈴木，塚本，関山は研究分担者，春山は連携研究者。

6）平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」：春山が研究代表者，江角は研究協力者。

7）平成26年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））「保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究」（研究代表者：長崎県立大学 特命教授 平野かよ子）：春山は，研究分担者として「感染症対策にかかわる保健活動の評価指標の検証」に取り組んだ。

8）平成26年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究」（研究代表者：沖縄県立看護大学 名誉教授 野口美和子）：春山が研究分担者。

9）平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「都道府県へき地保健医療計画の検証ならびに次期策定支援に関する研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 教授 梶井英治）：春山が研究協力者。

4. その他

1）栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2014.6.17, 12.10, 参加者4名）：春山は講師，島田は助言者。

2）日本地域看護学会第17回学術集会ワークショップ「小規模職場で働く看護職の現任教育の課題と対策」：春山は司会進行，青木はシンポジスト「小規模自治体に勤務する保健師の立場から」（2014.8.2, 参加者56名，岡山市）

3）下野市避難者交流会「ふくしまあじさい会」への健康支援活動：島田，関山（2014.6.12, 8. 12, 2015.1.8, 3.12, 参加者は毎回約50名，下野市）

4）春山は，日本ルーラルナース学会理事，編集委員，関山・江角は編集委員。

5）春山：①長崎県病院企業団・上五島病院主催 SHIMA ナース研修プログラム開設記念シンポジウム「離島・へき地における看護師確保と育成、現状と展望」におけるシンポジスト「へき地で勤務する看護職の確保・支援の実態」（2014.5.31, 長

崎市）②平成26年度茨城県職員保健師会総会・全国保健師長会茨城県支部総会後研修の講師「保健師の活動を見える化しよう－保健師の活動の質を評価する評価指標の活用－」（2014.6.14, 水戸市）

③足利市 平成26年度保健師研修会の講師「事業評価～PDCAサイクルに基づく保健事業の展開のために～」（2014.6.30, 参加者44名，足利市）④上都賀地区保健師業務連絡会の講師「地域診断に基づく事業展開について」（2014.11.4, 参加者40名，日光市）

⑤栃木県南健康福祉センター管内地域保健福祉等関係職員研修会の講師「地域診断に基づくPDCAサイクルの実施（応用編）～事例を通して～」（2014.11.21, 参加者27名，小山市）⑥筑西保健所管内保健師業務研究会 保健事業報告におけるコメンテーター（2015.1.26, 参加者20名，筑西市）

⑦平成26年度熊谷保健所管内保健師現任教育研修の講師「保健活動の評価指標について」（2015.2.10, 参加者20名，熊谷市）⑧日本家族計画協会，予防医学事業中央会主催の第16回自己効力感（セルフエフィカシー）を高め主体的な行動変容を支える健康教育実践セミナーの講師「ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション」（2014.12.6, 受講者41名，東京）。

⑨日本看護協会主催の平成26年度保健指導支援事業保健指導ミーティングの講師「新任期保健師の保健指導技術のスキルアップを図るための効果的支援とは」（2014.12.20, 参加者35名，下野市）。⑩気象業務支援センター 紫外線環境保健マニュアル改訂業務に係る検討委員（2014.9.1～）⑪栃木県保健師現任教育のあり方検討会委員⑫厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師看護師分科会員）⑬厚生労働省医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員（2014.9.10～）⑭厚生労働省「看護職員需給見通しに関する検討会」構成員（2014.12.1～）⑮富山県看護系高等教育機関整備検討委員会委員（2015.3.18～）⑯日本看護系大学協議会 選挙管理委員会委員（2014.6.16まで）⑰日本地域看護学会理事及び教育委員会委員長，選挙管理委員会副委員長（2014.8～），日本地域看護学会誌査読委員⑱日本公衆衛生学会評議員及び日本公衆衛生雑誌査読委員。⑲第73回日本公衆衛生学会総会学術部会委員を務め、学会発表抄録の査読を実施（2014.11.7まで）。⑳日本ルーラルナース学会誌査読委員。㉑千葉看護学会会誌査読者。㉒日本公衆衛生看護学会評議員及び学

術実践開発委員，査読委員。②日本看護科学学会代議員（2015.2.27～）。

6）鈴木：①下野市介護認定審査会委員。②日本ルーラルナース学会誌査読委員。③小山市地域包括支援センター運営協議会委員。

7）塚本：①栃木県看護協会主催の平成26年度実習指導者講習会の講師「実習指導の評価（6時間）」（2014. 9.9, 9.10, 受講者40名，宇都宮市）。②栃木県在宅医療チーム等構築支援事業助成による退院支援指導者育成研修会4回（2014. 6.19, 受講者28名，2014.9.7, 10.26, 2015.2.15, 受講者43名，宇都宮市），退院支援・調整講演会2回（2014.11.8, 受講者97名，2015.3.13, 受講者95名，宇都宮市），退院支援指導者育成研修修了者フォローアップ研修会（2015.3.13, 受講者22名，宇都宮市）。

8）島田：①栃木県看護協会教育委員。②下野市介護認定審査会委員。

9）関山：結城市介護認定審査会委員。

10）青木：①東京都島しょ町村保健活動サポーター。②島しょ町村新任保健師研修の講師「島しょ町村での保健師活動経験を通して伝えたいこと」（2014.4.4, 参加者11名，東京）。

11）江角：①芳賀赤十字病院看護師10名の研究支援（研究課題10件）。②日本思春期学会評議員。

精神看護学

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

講師 千葉 理恵

助教 小池 純子

（2014年7月まで育児休暇，8月から時短勤務
朝夕各1時間）

助教 石井慎一郎

2. 教育の概要

1) 精神看護学に関する教育概要

当学科目では，あらゆる健康水準の個人及び集団を対象に，対象者の人権を尊重するとともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し，精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は，精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく，多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目は，「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）は永井15時間，「精神看護方法」

（3年次後学期2単位；必修）は，半澤10時間，永井12時間，千葉6時間，「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，永井10時間，半澤2時間，千葉2時間，土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間，精神看護学教員全員で12時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は，下野市，小山市，野木町，佐野市の4市町にある精神科デイケア4施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において，全教員で90時間を担当した。また，総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では，育児休暇中の小池を除いた4名が学生10名に対して120時間を担当した。さらに，千葉は「看護トピックス」

（4年次後学期1単位；必修）の2時間を担当した。

後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて，学生の学習支援を試み。アクティブラーニングの手法

を用いた教育方法の改善及び質の向上に取り組んでいる。

2) 精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として，半澤は「援助関係論」（2単位）を30時間担当し，「生涯発達看護論」（2単位）では，永井が18時間担当した。また，永井，半澤，石井は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。千葉は「文献講読セミナー」（2年次前学期2単位；必修）を16時間担当した。

3. 研究の概要

永井は，日本精神保健看護学会学術連携委員会における研究として，昨年から取り組んでいた「精神科看護における倫理的課題と対処に関する調査結果」をまとめ，さらに精神看護専門看護師とともにうつ病高齢者および一般科に入院中の不安・うつ症状の看護ガイドラインの作成に携わっている。

半澤は，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C）「精神科臨床現場に形成されたモラルと行動制限に対する臨床判断に関する研究」の研究代表者（2014年4月－2018年3月）として石井らと共に活動している。また，基盤研究（C）「触法精神障害者の地域生活における現状と地域支援体制の確立に向けた基礎的研究」（代表者：宮城純子，2014年4月－2018年3月）の分担研究者として活動している。また，厚生労働省健康安全・危機管理対策総合研究事業「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあるり方に関する研究」（代表者：藤内修二，2014年4月－2015年3月）と厚生労働省地域保健総合推進事業「ソーシャルキャピタルの醸成や活用にかかる保健活動のあるり方に関する研究」（代表者：松本珠実，2013年4月－2014年3月）の分担研究者としても活動している。なお，2014年10月に半澤は，研究代表者として実施した「統合失調症患者の母親の介護負担感に関連する要因：患者の性別による比較」（精神障害とリハビリテーション，2009;13:79-87. 田中悟郎，稲富宏之，太田保之と共著）について日本精神障害者リハビリテーション学会の野中賞を受賞している。

千葉は，文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））の代表者として「精神疾患をもつ人々

を対象とした，ポジティブな心理的変容を促す看護プログラムの開発」（2013年度～2015年度予定），および（公財）聖ルカ・ライフサイエンス研究所：平成25年度 臨床疫学等に関する研究助成の代表者として「精神疾患をもつ人々を対象とした，疾患の経験による心理社会的変化の評価尺度の開発」（2013年度～2015年度予定）に取り組んでいる。また，2014年8月に The concept of "benefit finding" for people at different stages of recovery from mental illness; a Japanese study で日本私立看護系大学協会看護学研究奨励賞を受賞している。

小池は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）の代表者として，半澤らとともに「触法精神障害者家族に対する支援体制の確立に向けた基礎的研究」（2012年度～2015年度予定）に取り組んでいる。

石井は，「精神科看護師の臨床判断と情動指数の検討」を研究テーマとして本学赴任前から継続的に取り組み，日本感情心理学会，日本保健福祉学会，日本看護評価学会，日本社会精神医学会，日本精神科看護協会などの学術集会で精力的に発表している。

なお，文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「日本型地域ケア実践開発研究事業」において，「精神および神経症状にかかる薬剤投与関連」特定行為のトライアルとして「精神科薬物療法と看護」のe-learningコンテンツを永井，石井，小池を中心に作成した。特定行為以外の高齢者看護3（認知症）については，半澤，千葉を中心にe-learningコンテンツを作成した。

その他各教員が，国内外の学会での発表，学内外の学術雑誌への論文掲載および査読などを担当している。また，永井を中心に発足して9年目を迎える北関東精神保健看護研究会は，年2回の研究会を継続しており，栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換，現場の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

4. その他

永井は，栃木県看護協会，栃木県，糖尿病認定看護養成課程2施設（日本看護協会看護研修学校および日本赤十字看護大学）等が主催する各種研修会の講師として，また，四日市医療看護大学大

学院の「コンサルテーション論」の非常勤講師として看護職の継続教育に協力した。また，日本精神保健看護学会評議員（学術連携委員会）・査読委員，精神保健従事者懇談会代表幹事，日本ルーラルナーシング学会評議員，理事（渉外担当），事務局長，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本看護学教育学会の評議員，文化看護学会の監事，日本精神衛生学会の理事，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本家族看護学会の査読委員，日本病院・地域精神医学会編集委員を務めている。さらに，介護福祉士国家試験委員（幹事）を務めた。

半澤は，日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当），同学会誌編集委員，査読委員，日本社会精神医学会理事，同学会編集委員，査読委員，日本精神保健・予防学会の評議員，日本精神衛生学会理事および学会誌査読委員，日本精神神経学会 英文誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences, Psychiatry Research, International Journal of Culture and Mental HealthおよびAsian Federation of Psychiatric Associations, Asian Journal of Psychiatry,のReviewer，日本精神保健看護学会，日本ルーラルナーシング学会，日本看護科学学会和文誌の専任査読委員，日本精神保健福祉学会機関誌の編集委員を務めた。

千葉は，Clinical Nursing Studies, Open Journal of Nursing, International Journal of Mental Health Nursing, Asian Nursing Research, Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, の5誌の査読委員を務めており，日本ルーラルナーシング学会の会計を務めている。また，石井は同学会の事務局員を務めている。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教授 成田 伸

教授 野々山未希子

准教授 角川 志穂

助教 柴山 真里（2015年3月31日退任）

助教 根来利佳子（2014年4月1日着任，
2015年3月31日退任）

取得資格：看護師，助産師，保健師。

学歴：大阪府立看護大学卒業。

職歴：高槻赤十字病院，宇都宮市保健所健康増進課，済生会宇都宮病院等に助産師として勤務。

助教 荒川さゆり（2014年4月1日着任，
2015年3月31日退任）

取得資格：看護師，助産師，保健師。

学歴：自治医科大学看護学部卒業。

職歴：済生会宇都宮病院産科病棟・NICU，
東京電力栃木支店健康管理室に助産師・保健師として勤務。

助教 篠原有美子（2014年5月1日着任）

取得資格：看護師，助産師，保健師。

学歴：国際医療福祉大学看護学部卒業。

職歴：国際医療福祉大学病院産婦人科病棟，
臼井産婦人科，石塚産婦人科に助産師として勤務。

2. 教育の概要

1) 母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（妊産褥婦）（1年次後学期2単位：必修）

成田が担当し，TAの協力を得て実施した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

(2)周産期実践看護学Ⅰ（妊産褥婦）（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任として総括し，母性看護学教員で実施した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため乳児と母親に教育支援者として協力してもらい，学生と交流することで効果的な学習ができた。

(3)周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児期）（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任として総括し，母性看護学教員で実施した。周産期看護実習につながる妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨床助教や地域助産師も加わり，丁寧な指導を行った。

(4)生涯発達看護学概論Ⅵ（4年次前学期1単位：必修）（旧カリ科目）

野々山が科目責任者として担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

(5)周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）（旧カリ科目）

角川が科目責任者となり，母性看護学教員が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し，効果的な実習を展開できた。

2) 助産学に関する教育概要

(1)助産学概論（3年次後学期1単位：選択）（新カリ科目）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として全体を総括した。助産師の概念，助産師活動の概要，助産師の国際活動，海外の母子保健，性と生殖の健康と人権などを教授した。

(2)基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）（新カリ科目）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる形態機能，妊娠・分娩の生理について教授した。

(3)基礎助産学Ⅱ（3年次後学期1単位：選択）（新カリ科目）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる産褥期・新生児期の生理について教授した。

(4)基礎助産学Ⅲ（3年次後学期1単位：選択）（新カリ科目）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。母子の心理・社会的側面および，母子の健康と家族役割について教授した。

(5)実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し，成田が科目責任者として総括し，柴山及び助教が分担

した。

(6)実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し、成田が科目責任者として総括し、柴山及び助教が分担した。分娩介助の演習については、学生が実習予定の施設の臨床指導者に来学いただき、具体的な指導を展開してもらった。

(7)実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し、成田が科目責任者として総括し、柴山及び助教が分担した。

(8)実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し、野々山が科目責任者として総括し、地域における助産師活動について教授した。

(9)助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみを開講し、野々山が科目責任者として総括し、助産師活動に関わる管理の概念と活動について教授した。

(10)妊娠期助産学実習（4年次前学期1単位：選択）

助産学生6名が受講した。成田が科目責任者として総括し、母性看護学教員が分担した。自治医科大学附属病院で、妊娠期の対象者を受持ち、ケアを展開した。

(11)分娩・育児期助産学実習（4年次後学期4単位：選択）

助産学生6名が受講した。成田が科目責任者として総括し、母性看護学教員が分担した。自治医科大学附属病院で3名、済生会宇都宮病院で2名、木村クリニックで1名が実習し、必要な分娩介助件数を達成し、継続ケースのケアを展開した。

3) 母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1)基礎看護セミナー（1年次前学期1単位：必修）

成田、野々山、柴山、根来、荒川が分担者としてそれぞれのグループを担当し、レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

角川が分担者としてグループを担当し、文献講読およびレポート作成を指導した。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

成田、野々山、角川、柴山、根来、荒川が分担者として担当し、母性看護学領域に配分された学生を小グループとして受け持ち、テーマに関連した文献の収集、プレゼンテーション、レポート作

成を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田、野々山、角川、柴山、根来、荒川、篠原で母性看護学領域に配置された学生14名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして、附属病院産科病棟およびNICU、附属さいたま医療センター産科病棟、大野医院、和田マタニティクリニックを使用し、栃木県助産師会の協力を得た。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し、母性看護学教員、TA、臨床助教の協力を得て実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し、最新知識を教授した。

(6)ジェンダー論（1、4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し、非常勤講師の協力も得て、ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

3. 研究の概要

1) 成田は、文部科学省科学研究補助金（挑戦的萌芽研究）による研究課題「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、聖マリア学院大学松原まなみ、広島大学大平光子、富山大学笹野京子、松井弘美、兵庫医療大学工藤里香、大阪府立大学山田加奈子であった。

2) 成田は、看護学部共同研究費補助金「学生の学習状況・学習環境状況調査」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、大塚、中村、横山、里光、塚本、浜端、平尾、鈴木、角川、田村、長谷川、本学看護職キャリア支援センター師長福田順子であった。

3) 成田は「母親側と支援者側双方からみた栃木県内における母乳育児支援の実態（10年後調査）」の研究代表者として実施した。研究分担者は、野々山、角川、篠原、根来、柴山、荒川であった。

4) 野々山は、「保護者が希望する性教育の内容と家庭での会話」の研究を実施した。

5) 角川は、看護学部共同研究補助金を受け、「第三次医療施設で出産した母子と家族に対する家族学級を通じた継続看護の検討」について、柴

山を共同研究者として、調査を実施した。

4. その他

- 1) 成田は、日本母性衛生学会「母性衛生」査読委員を務め査読を行った。
- 2) 成田は、日本母性看護学会「日本母性看護学会誌」査読委員を務め査読を行った。
- 3) 成田は、第34回日本看護科学学会学術集会において、学会発表の査読を行った。
- 4) 成田は、聖マリア学院大学大学院において「周産期医療における質の保証と看護」について教授した。
- 5) 成田は、富山大学大学院医学薬学教育部修士課程医学領域看護学専攻において、「母性看護専門看護師育成の経験と課題」について教授した。
- 6) 成田は、群馬大学大学院において「ハイリスク状態にある女性への援助とケアシステムー糖尿病を合併した女性と家族への援助」について教授した。
- 7) 成田は、第16回日本母性看護学会学術集会において、母性看護学会戦略的プロジェクト担当理事として、交流集会「周産期看護ケアにおけるデータ集積と分析のあり方」を主催、講師を務めた。
- 8) 成田は、第9回日本母性看護学会セミナーとして、「Women's Health Nurse Practitioner－米国における活動の実際」を企画し、座長を務めた。
- 9) 野々山は、日本性感染症学会第27回学術大会において、学会発表の査読を行った。
- 10) 野々山は、第55回日本母性衛生学会総会において、学会発表の査読を行った。
- 11) 野々山は、公益財団法人性の健康医学財団「性の健康医学財団賞（性の健康分野）」の研究助成の審査員を担当した。
- 12) 野々山は、上尾看護専門学校において非常勤講師として「成人看護援助論Ⅱ生体防御 HIV/AIDSとその看護」「成人看護援助論Ⅱ生体防御 STIと感染予防」を享受した。
- 13) 野々山は、母子保健研修センター助産師学校1年コースにおいて非常勤講師として「助産診断・技術学 STIと母子感染」を教授した。

小児看護学

教授 横山 由美

1. スタッフの紹介

教授 横山 由美

講師 小林 京子（2014年7月31日退任）

講師 田村 敦子

助教 小西 克恵（2014年4月1日着任）

取得資格：看護師

学歴：自治医科大学附属看護短期大学

職歴：自治医科大学附属病院，自治医科大学看護学部（臨時教員）

助教 仙徳 明美（2014年8月1日着任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：自治医科大学看護学部

職歴：自治医科大学とちぎ子ども医療センター，所沢市保健センター 保健師（臨時職員・産休育休代替）

2. 教育の概要

1) 小児看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）（新カリ科目）

横山が科目責任者として総括し，田村が分担して実施した。小児看護学の基本概念，成長・発達，倫理，制度などを学習する。

(2)小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）（新カリ科目）子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対する援助を学習する。

田村が科目責任者として担当し，田村，横山，仙徳が分担して実施した。また，臨床教授の朝野，臨床講師の黒田が2時間ずつ講義を担当した。

(3)小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位：必修）（新カリ科目）小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

横山が科目責任として総括し，講義は横山，田村，小西，仙徳が分担して実施した。演習は横山，田村，小西，仙徳とTAおよび臨床教員で実施した。

(4)小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位：必修）（旧カリ科目）小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護，看護過程の展開などを学習する。

小林が科目責任として総括し，講義は横山，田村が分担して実施した。演習においては，小林，横山，小西とTAで実施した。

(5)小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族を理解し，看護の展開を学ぶ。

横山が科目責任者として総括した。田村，小林，小西，堀田（臨時教員）が担当した。

3) 小児看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

横山，小西が分担者としてグループを担当し，レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

小林，田村が分担者としてグループを担当し，文献講読およびレポート作成を指導した。

(3)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

横山，田村，小西で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。仙徳は10月から指導に入った。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

横山，田村，小西，仙徳，堀田（臨時教員）で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。フィールドとして，自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟，3A病棟，4A病棟，PICU，小児外来を使用した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

横山が担当し，学生15名を指導した。

3. 研究の概要

1) 横山と小林は，自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児看護専門看護師の黒田と4A病棟看護師の齊藤と看護学部看護系教員共同研究費で「子どもの終末期におけるきょうだいへの支援の検討」をテーマに研究を実施した後，日本小児看護学会へ投稿し，受理された。

2) 横山，田村，小西，仙徳は，自治医科大学とちぎ子ども医療センター3A病棟師長相場，小児看護専門看護師の黒田，東京北療育センター 小児看護専門看護師佐々木，大学院生手塚，佐々木，宗像と看護学部看護系教員共同研究費で「へき地における小児看護のあり方ー医療機関と学校との連携を焦点として」をテーマに研究を実施した。

4. その他

- 1) 横山は、東京都保健医療公社 多摩南部地域病院看護部研修で、看護研究の講師を務めた。
- 2) 横山は、博士前期課程の塚本、手塚、佐々木、宗像とともに小山市立梁小学校および小山市立延島小学校の学校保健委員会で4・5・6年生を対象に健康教育を行った。
- 3) 横山、小林、田村、小西、仙徳は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで、退院後の育児相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。
- 4) 横山は、日本ルーラルナースング学会副事務局長を務めた。
- 5) 横山は、栃木県看護協会研修会一般教育「家族看護」の講師を務めた。
- 6) 横山は、栃木県看護協会実習指導者講習会の講師を務めた。
- 7) 横山は、日本小児看護学会誌専任査読者を務めた。
- 8) 横山は、日本小児看護学会第24回学術集会で実行委員を務めた。

成人看護学

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

准教授 小原 泉

准教授 村上 礼子

講師 長谷川直人（2014年4月1日就任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：修士（看護学）（山形大学大学院）

職歴：東京医科大学八王子医療センター（看護師），山形大学医学部（非常勤職員），山形大学医学部看護学科（助手，助教），東邦大学看護学部（助教）

助教 樫山 定美（2015年3月31日退任）

助教 吉田 紀子（2015年3月31日退任）

助教 安藤 恵

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は，健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1）成人看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅳ（成人期）（1年次前学期2単位：必修）

中村が12時間，小原が8時間，村上が8時間の講義を担当した。

(2)成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

中村が12時間，小原が6時間，樫山が6時間，安藤が4時間の講義を担当した。

(3)成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，中村が6時間，吉田が4時間，安藤が2時間担当した。演習は，16時間を成人看護学全教員で担当した（内訳（企画主担当）：看護過程8時間（中村・小原），呼吸機能障害2時間（樫山），循環機能障害2時間（安藤），手術療法2時間（吉田），生命の危機2時間（吉田））

(4)成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，中村が2時間，小原が6時間，村上が2時間，長谷川が2時間担当した。演習は，2時間を成人看護学全教員で担当した（内訳（企画主担当）：内部環境調節機能障害2時間（長谷川））。

(5)成人実践看護学Ⅳ（3年次前学期1単位：必修）

講義は，村上が4時間，長谷川が10時間を担当した。演習は，14時間を成人看護学全教員で担当した（内訳（企画主担当）：看護過程10時間（中村・村上），感覚機能障害2時間（村上），運動機能障害2時間（長谷川））。

(6)成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は統括を行い，小原，樫山，安藤は各3クール，村上，長谷川，吉田は各2クール担当した。

(7)成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

村上が統括を行い，小原，樫山，安藤は各2クール，村上，長谷川，吉田は各3クール担当した。

(8)成人期継続療養看護実習（2年次後学期2単位：必修）

小原は統括を行い，成人看護学全教員が2クールを担当した。また，井上育子非常勤講師が2クール担当した。

2）成人看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

小原，村上，樫山，吉田，安藤は，グループ別セミナーを担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

中村は科目責任者で全体を統括し，4時間の講義とグループ別学習を担当した。長谷川はグループ別学習を担当した。

(3)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中村は全体を統括指導し，成人看護学全教員が計18名の学生を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中村が全体を統括指導し，成人看護学全教員が学生18名を指導した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

中村は統括を行い，小原は企画運営，全体討議，4年間の振り返りを担当した。成人看護学教員全員が学生を指導した。

(6)チーム医療論（4年次前学期および2年次後学期1単位：必修）

小原は科目責任者で全体を統括した。小原が6時間，村上が2時間，樫山が2時間，細田満和子非常勤講師（星槎大学副学長，共生科学部教授）が4時間の講義を担当した。

(7)がん看護学（4年次前学期および2年次後学期1単位：選択）

小原は2時間の講義を担当した。

(8)へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）

長谷川はグループ別研修指導を担当した。

3. 研究の概要

- 1) 中村は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）（研究代表者：中村美鈴）による研究課題「術後機能障害評価尺度（DAUGS20）の欧米版の開発と有用性の検証」において、上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度（短縮版）の欧米版の開発に向けて、小原泉、Alan Lefor、Vanderbilt Cancerセンターの共同研究者と共に米国フィールドとの調整を行い、研究活動の推進に努めた。
- 2) 中村は、文部科学省学術研究助成助成金（挑戦的萌芽研究）における研究課題「日本における胃がん患者の術後機能障害の基準値確立への挑戦」（研究代表者：中村美鈴）において、村上、樫山、吉田、安藤らの共同研究者と共に、データを分析し、研究成果を国際学会で発表した。
- 3) 小原は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者：小原泉）による研究課題「がん臨床試験についての患者の理解度評価に関する研究」において、理解度評価尺度の開発に向けて、本学部教員の本田、本学医学部教員の藤井博文および藤原寛行、がん研有明病院の宋菜緒子とともに、尺度項目の検討と予備調査のまとめ、および本調査を行った。
- 4) 村上は、平成26度看護学部教員共同研究費による研究課題「看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割～病棟急変場面における意図的な声かけ～」の研究代表者として実施した。共同研究者は、中村、本学部教員川上、本学部教員関山、本学部教員飯塚由、樫山、渡邊美智子、河野龍太郎、鈴木義彦、浅田義和であった。
- 5) 樫山は、看護学部学内共同研究所積金による研究課題「看護師の教育的関わりによる上部消化管がん術後患者の術後機能障害の緩和と生活のあり様」（研究代表者：樫山定美）と

して、共同研究者の中村、小原、村上、長谷川、吉田、安藤の成人看護学全教員他、附属病院の研究協力者、消化器外科学講座の医師と共に研究活動を年間計画通り推進し、報告書を提出した。

- 6) 中村は、文部科学省科学研究補助金（挑戦的研究）による研究課題、「直腸がん肛門括約筋温存術後の排便障害軽減へ向けた看護支援の挑戦的取り組み」（研究代表者：佐藤正美）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 7) 中村は、平成26度看護学部教員共同研究費による研究課題「看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割～病棟急変場面における意図的な声かけ～」（研究代表者村上礼子）の共同研究者として実施した。
- 8) 小原は、研究代表者樫山とともに、看護学部学内共同研究所積金による研究課題「看護師の教育的関わりによる上部消化管がん術後患者の術後機能障害の緩和と生活のあり様」（研究代表者：樫山定美）に分担研究者とし、附属病院の研究協力者、消化器外科学講座の医師と共に研究活動を年間計画通り推進し、報告書を提出した。
- 9) 村上は、厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題、「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」（研究代表：春山）に、研究協力者として参加し、同研究を実施した。
- 10) 長谷川は、「有職2型糖尿病患者の社会生活を促進するための自己調整尺度の開発」の研究を代表者として実施した。

4. その他

- 1) 中村は、平成25年度～26年度と、大学基準協会の評価員を務めた。
- 2) 3) 2014年8月に「実践に活用できる看護過程」（栃木県看護協会主催）というテーマで臨床看護師80名を対象に12時間講義・演習を担当した。長谷川と安藤は、演習の指導補助を担当した。
- 3) 中村は、2014年9月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会（栃木県看護協会主催）において、「人的資源活用論：継続教育」の

- 講義・演習を那須日本赤十字病院の高橋副部長・山下師長とともに、講義・演習を12時間担当した。
- 4) 中村は、2014年9月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会（栃木県看護協会主催）において「ナレッジマネジメント」の講義・演習（6時間）を担当した。
 - 5) 中村は、2014年9月に実習指導者養成講習会（栃木県看護協会主催）において「実習指導の評価」の講義（3時間）を担当した。樫山は、指導補助として勤めた。
 - 6) 中村は、2014年度日本看護協会急性期看護の学会委員と論文編集員長を担当し、投稿論文の査読と、全体のとりまとめを行った。
 - 7) 中村は、2006年6月より日本ルーラルナース学会の評議員、2010年より、同理事を務めている。
 - 8) 中村は、2006年4月より日本保健医療社会学会の評議員、機関紙編集委員を務めている。
 - 9) 小原は2014年7月に聖路加看護大学がん化学療法看護認定看護師教育課程で「臨床試験と治験コーディネーター」について講義した（4時間）。
 - 10) 小原は、2014年8月に石川県立看護大学大学院（継続・緩和ケア展開論）で「生命に関わる健康問題に関する患者や家族の意思決定と看護援助」について講義した（6時間）
 - 11) 小原は、2014年9月に筑波大学大学院（がん看護学特論Ⅰ）において「意思決定と看護援助」について講義した（4時間）
 - 12) 小原は、2014年9月に千葉大学看護学部乳がん看護認定看護師教育課程において「治験・臨床試験として治療を受ける患者への看護」について講義した（4時間）
 - 13) 小原は、2014年9月に栃木県看護教員講習会にて「臨地実習指導方法」講義した（16時間）。
 - 14) 小原は、2010年4月より日本がん看護学会国際委員会委員を務めている。
 - 15) 小原は、2011年10月より厚生労働省臨床研究・治験活性化に関する検討会の構成員を務めている。
 - 16) 村上は、2014年9月に栃木県看護教員講習会にて「臨地実習指導方法」講義した（16時間）。
 - 17) 村上と吉田は、2014年度日本看護協会急性期看護における投稿論文の選考委員を務めた。
 - 18) 中村は、CRSTの活動として、研究指導を実施した。
 - 19) 長谷川は、東京医科大学八王子医療センター救命病棟、消化器外科病棟、ICU・CCU病棟、外科外来の看護師を対象に、研究指導を行った。
 - 20) 中村は、日本ルーラルナース学会の専任査読員を務めた。
 - 21) 中村は、2009年度から日本看護教育学会学会誌の専任査読委員を務めた。
 - 22) 中村は、2008年度より日本クリティカルケア学会学会誌編集委員会の編集委員を務めた。
 - 23) 中村は、2006年9月より日本救急看護学会の専任査読委員を務めた。
 - 24) 中村は、日本看護科学会誌 Japan Journal of Nursing Scienceの編集委員を務めた。
 - 25) 小原は、日本がん看護学会誌の査読委員を務めた。
 - 26) 長谷川は、日本糖尿病・教育看護学会誌編集委員会の専任査読者を務めた。
 - 27) 中村は、第16回日本救急看護学術集会の査読委員を務めた。
 - 28) 中村は、第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会の査読委員を務めた。
 - 29) 中村は、第31回日本看護教育学会の査読委員を務めた。
 - 30) 中村は、第9回日本ルーラルナース看護学会の査読委員を務めた。
 - 31) 小原は、第29回日本がん看護学会学術集会の査読委員を務めた。
 - 32) 長谷川は、第19回日本糖尿病教育・看護学会の一般演題査読委員を務めた。
 - 33) 中村は、「地域からの発信」というメインテーマにおいて、鈴川正之会長のもと、副会長を務めた。
 - 34) 中村は、第17回日本臨床救急医学会同学会にて、シンポジウム「救急医療の場ではだれがどのように意思決定を行うのか」というテーマで座長を務めた。
 - 35) 中村は、第16回日本救急看護学会学術集会「カフェ的対話が救急看護教育の未来を拓く」において、ワールドカフェを用いた交流集会を代表として、村上、小原、樫山、吉田、

安藤，メディカルシミュレーションセンター
鈴木義彦講師，浅田義和助教と共に開催した。

- 36) 村上是，第17回日本臨床救急医学会総会・学術集会において，ランチョンセミナー「患者に取って安全安楽で，自己コントロール感を保つ口腔ケア」の座長を務めた。

老年看護学

教授 宮林 幸江

1. スタッフの紹介

教授 宮林 幸江

准教授 浜端 賢次

講師 川上 勝

講師 清水みどり

2. 教育の概要

老年看護学では、様々な生活の場・療養の場で、あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として、看護を実践するために必要な専門的能力を養うことを教育目標としている。

1) 老年看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）

（1年次後学期2単位：必修）

老年看護学の概念及び対象と老年看護学の役割を学ぶことを目的とした。高齢者疑似体験や回想法に関する学びを取り入れた。臨床の場における看護の実践が理解できるよう、戸田昌子臨床講師、鮎澤みどり非常勤講師、船田淳子非常勤講師による講義を組み込んだ。

（担当：全教員）

(2)老年実践看護学Ⅰ

（2年次前学期1単位：必修）

高齢者の健康特性及び健康評価に基づき、セルフケアやヘルスプロモーションの考え方を中心に、高齢者の保健・医療・福祉の連携など、高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。なお、鮎澤みどり非常勤講師による講義を組込んだ。

（担当：宮林、浜端、清水）

(3)老年実践看護学Ⅱ

（2年次後学期2単位：必修）

加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また、臨床の場の看護の実践が理解できるよう、太田信子臨床講師、阿久津美代臨床助教、塩崎純子臨床助教による講義を組込んだ。

（担当：全教員）

(4)老年実践看護学Ⅲ

（3年次前学期1単位：必修）

老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし、臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害、皮膚障害、排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また、認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。（担当：全教員）

(5)老年臨床看護実習

（3年次前学期2単位：必修）

附属病院および特別養護老人ホーム、認知症グループホームにおいて、疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

（担当：全教員）

(6)老年在宅看護実習

（3年次後学期3単位：必修）

老年看護学では、訪問看護ステーション及び通所リハビリテーション施設での学生指導を担当した。（担当：全教員）

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー

（1年次前学期1単位：必修）

宮林は若澤助教と7名の学生を、浜端は福田講師と8名の学生を担当した。

(2)文献講読セミナー

（2年次前期1単位：必修）

川上と清水は各々9名の学生を担当した。また、川上は「収集した文献整理と発表方法」について講義した。

(3)看護総合セミナー

（4年次後学期4単位：必修）

16名の学生を対象に、看護実践課題に沿った先行研究の文献検討、総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員4名の学生を担当した。

(4)総合実習

（4年次前学期2単位：必修）

20名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し、実践内容が目的に沿うよう随時指導した。（担当：全教員）

(5)看護トピックス

（4年次後学期1単位：必修）

14名の学生を対象に、看護活動の場（病院・施設・在宅）でグループとなり、高齢社会や多

死社会，認知症高齢者の視点からその対応と予防策について検討し，共有した。（担当：全教員）

大学院看護学研究科 教育の概要

母子看護学領域「小児看護学」

教授 横山 由美

1. スタッフ紹介

教授 横山 由美

2. 大学院教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

平成26年度は、専門看護師教育課程の2年次2名、1年次1名、研究を主体とする課程の1年次1名の教育を行った。

院生の状況を配慮しつつ、ティーチングアシスタントとして、小児看護学の講義・演習・実習・セミナー等の補助を通し、教育方法について指導した。

1) 小児看護学講義Ⅰ（1年次前期2単位）

子どもを理解するために、成長発達、生活、社会的・歴史的側面から、主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。1年生2名が履修した。横山が全講義を担当した。

2) 小児看護学講義Ⅱ（1年次前期2単位）

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために、小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。1年生2名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の小児看護専門看護師黒田・本多、朝野が分担者として担当した。

3) 小児看護学演習Ⅰ（1年次後期2単位）

保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し、看護の役割・活動について学ぶ。1年生2名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の朝野、黒田（小児看護専門看護師）が分担者として担当した。

4) 小児看護学演習Ⅱ（1年次後期2単位）

専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。1年生2名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の医学部教員河野、熊谷が分担者として担当した。

5) 小児看護学講義Ⅲ（1年次後期2単位）

小児専門看護職として必要な機能の側面から、

小児看護の現状を分析し、小児看護専門職の課題および役割について学ぶ。1年生1名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の小児看護専門看護師黒田・本多・佐々木が分担者として担当した。

6) 小児看護学演習Ⅲ（1年次後期2単位）

事例を用いて小児看護実践における課題および小児専門看護師としての援助について検討する。事前学習として9月に日光市を対象とした地区踏査および日光市民病院オリエンテーションを行った。演習のフィールドとして日光市民病院および日光福祉保健センターを使用した。1年生2名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常勤講師で小児看護専門看護師の黒田・本多・佐々木が分担者として担当した。

7) 小児看護専門看護実習（2年次前期6単位）

高度医療および地域の医療が展開される場において、小児看護専門看護師として子どものケアを実践できる能力を修得する。2年生2名が履修した。横山が科目責任者として指導し、非常勤講師として小児看護専門看護師である黒田、本多、佐々木がともに指導した。

8) 小児看護学課題研究（2年次後期4単位）

小児看護学の学修並びに看護実践を通じて見出された研究課題に沿って研究を行い、修士論文を作成する。2年生2名が履修し、修士論文として提出した。研究指導教員として横山が担当した。

講義・演習・セミナーを通じて1年生1名が課題研究で、1名が修士論文における研究課題を研究構想発表会において発表し、さらに検討を重ねた。院生の宗像は、文献検討した結果から、

「“YARIGAI” for Nurses in Japan

—An Examination based on the Definitions of “YARIGAI” in the Literature—」について18th EAFONSにおいてポスター発表した。

母子看護学領域「母性看護学」

教授 成田 伸

1. スタッフ紹介

教 授 成田 伸

教 授 野々山未希子

准教授 角川 志穂

2. 大学院教育の概要

平成26年度は、専門看護師教育課程を希望する1名および特別研究を目指す1名について2年次の教育、専門看護師教育課程を希望する2名について1年次の教育を行った。

1年次から38単位の新カリキュラムとなり、前期には母性看護学講義Ⅰおよび母性看護学演習ⅠⅡ、後期には母性看護学講義Ⅱ、Ⅲおよび母性看護学演習Ⅲ、Ⅳを、非常勤講師による臨地講義を活用して実施した。講義・演習・セミナーを通じて院生それぞれが課題研究に向けての課題検討を行い、研究構想発表会において発表し、さらに検討を重ね研究計画を立ち上げ、倫理審査を受審し承認を得た。小林は休職中の職場を母性看護専門看護実習の実習場所として調整し、「産科他科混合病棟の助産師による、妊婦健診外来から産科病棟への継続看護システム導入の検討」をテーマとすることになった。佐藤は、附属病院において実習することとし、「初めて妊娠糖尿病と診断された妊婦の心身の変化と助産師の支援についての検討」をテーマとすることになった。

2年次の専門看護師教育課程を受講する植木は、自治医科大学附属病院を中心に母性看護専門看護実習を実施し、その中で課題研究を実施、その結果をまとめ、修士論文「初めての子どもが早産児である母親の母乳育児を通じた体験」を完成させた。特別研究を目指した望月は、女子刑務所職員の協力を得て刑務所内で調査研究を実施し、「女子刑務所のリプロダクティブヘルスの実態とそのケアニーズに関する検討」を完成させた。

2年次の院生は状況を配慮しながらであったが、ティーチングアシスタントとして、母性看護学・助産学の講義・演習・実習・セミナー等を補助し、教育方法について学んだ。

健康危機看護学領域 「クリティカルケア看護学」

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

准教授 村上 礼子

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状态からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

また、平成26年度は、本大学院のカリキュラム改正が行われ、1年次生1名は38単位のカリキュラム、2年次生3名は26単位のカリキュラムを受講している。なお、26年度1年次生は、これまでに26単位カリキュラムの科目履修生であったため、読みかえて単位修得ができていない科目がある。

1) クリティカルケア看護学に関する教育概要 ＜38単位カリキュラムの教育概要＞

(1) クリティカルケア看護学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が26時間、山勢博彰（山口大学大学院医学系研究科教授）4時間の講義を担当する予定であったが、本年度は開講していない。

(2) クリティカルケア看護学講義Ⅱ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が4時間、竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授、准教授）が各2時間、布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が12時間、三澤吉雄非常勤講師（本学医学部心臓血管外科部門教授）が4時間、斎藤修非常勤講師（本学医学部腎臓内科部門准教授）2時間、安田是和非常勤講師（本学医学部消化器外科学部門教授）2時間、水田耕一（本学医学部移植外科学部門准教授）2時間の講義を担当した。

(3) クリティカルケア看護学講義Ⅲ（1年次後学期2単位：必修・選択）

中村が10時間、布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座学内教授）が6時間、

竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授）が2時間、多賀直行非常勤講師（とちぎ子ども医療センター准教授）が2時間、和田政彦非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が2時間、鈴川正之非常勤講師（医学部救急医学講座教授）が6時間の講義を担当する予定であったが、本年度は開講していない。

(4) クリティカルケア看護学演習Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

中村が16時間、村上が4時間、茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院CNS）が中村とともに4時間の講義・演習を担当した。

(5) クリティカルケア看護学演習Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

中村が36時間、村上が12時間、井上壮一郎非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座准教授）が4時間、木下佳子非常勤講師（NTT東日本関東病院CNS）が8時間の講義・演習を担当する予定であったが、本年度は開講していない。

(6) クリティカルケア看護学演習Ⅲ（1年次後学期2単位：必修）

中村が32時間、村上が12時間、古賀雄二非常勤講師（亀田医療大学講師）が8時間、綿貫成明非常勤講師（国立看護大学校教授）が8時間の講義・演習を担当した。

(7) クリティカルケア看護学演習Ⅳ（1年次後学期2単位：必修）

中村が6時間、村上が4時間、土蔵愛子非常勤講師（兵庫医科大学医療人育成センター主任教員）が4時間、谷島雅子非常勤講師（本学附属病院CNS）、茂呂悦子看護師（本学附属病院CNS）、上澤弘美非常勤講師（土浦協同病院CNS）、渡邊好江非常勤講師（杏林大学医学部付属病院CNS）が中村とともにそれぞれ4時間ずつ講義・演習を担当する予定であったが、今年度は開講していない。

(8) クリティカルケア専門看護実習Ⅰ（1年次後学期2単位：選択必修）

今年度は開講していない。

(9) クリティカルケア専門看護実習Ⅱ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度は開講していない。

(10) クリティカルケア専門看護実習Ⅲ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度は開講していない。

(11)健康危機看護学課題研究（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度は開講していない

(12)健康危機看護学特別演習（2年次前・後学期4単位：選択必修）

中村が40時間、村上が32時間、ゼミ形式48時間で講義・演習を担当した。

(13)実践看護学特別研究（2年次後学期6単位：選択必須）

今年度は開講していない。

<26単位カリキュラムの教育概要>

(1)クリティカルケア専門看護実習（2年次前学期6単位：選択必修）

高度医療施設を中村が4単位、へき地における病院を中村・村上が2単位、担当した。

(2)健康危機看護学特別研究（2年次後学期6単位：選択必修）

研究指導教員として中村が担当した。

(3)健康危機看護学課題研究（2年次後学期6単位：選択必修）

研究指導教員として中村，研究指導補助教員として村上が担当した。

健康危機看護学領域「精神看護学」

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教 授 永井 優子

教 授 半澤 節子

2. 教育の概要

精神看護学では、主として精神的な健康危機状態について、人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う、上級の精神看護実践専門職として役割を果たすことができ、実践状況を変革できる人材育成を目指した教育活動をしている。

平成26年度に精神看護学に関する専門科目の履修を登録した院生は1名であり、「健康危機看護学特別研究」を開講した。

【健康危機看護学特別研究（通年）】

特別研究の授業目標は、看護実践を通して見出された研究課題について研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成することである。3年生1名が履修した。この1名は、研究計画書を作成し、研究計画支援委員会に所定の書類を提出し、研究計画に関して再検討すべき事項について助言を得た。

がん看護学領域「がん看護学」

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香

准教授 小原 泉

2. 教育の概要

がん看護学領域は、平成19年度に文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」において、本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において、平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に、がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して、看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。本領域ではがん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。平成22年に専門看護師教育課程（28単位）の認定を受け、平成26年には、博士前期課程の教育課程として改編し、38単位の専門看護師教育課程の認定を受けた。

1) がん看護学に関する教育概要

平成26年度は1名の学生を受け入れた。この1名は専門看護師教育課程の標準コースにて講義・演習を開始した。38単位認定に伴いがん看護専門科目は、演習科目2単位、専門実習4単位が追加となっている。

【がん看護学講義Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がんの分子生物学、病因、疫学と予防、遺伝学、病態生理学、診断、治療法に関する最新知見を深め、治療に応じた身体管理方法の概要を理解する。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題を包括的にアセスメントする視点を修得し、最新のケア実践への適応を探求することを授業目標として。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して、がんの疫学、病態、診断、治療法などの最新知見から包括的なアセスメントを行う視点を、学生によるプレゼンテーション、討議を通

して最新のケア実践へ繋げる方策を考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師7名が担当した。

【がん看護学講義Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族が抱える複雑な健康課題を理解する基盤となる概念や理論を学び、看護モデルへの適応を探究することを授業目標とした。がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念枠組みを理解するため、国内外の文献と討議をもとに、がん看護領域における基本的概念について考究した。またがん看護領域に関連するストレスコーピング理論、ケアリング理論、危機理論などの諸理論の理解についてプレゼンテーション、討議をし、それをもとにがん看護における本理論の適応を考究した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師1名が担当した。

【がん看護学演習Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して、最新の知見に基づいた系統的なアセスメントを行い、患者とその家族の苦痛及び苦悩を包括的に理解する方法を学修することを授業目標とした。がん患者とその家族の健康課題を身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな各側面から系統的に症状を捉える基本、診断期から終末期に至る各期におけるがん患者とその家族の症状アセスメントの分析を通して系統的に習得する方法を教授した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原が担当した。

【がん看護学演習Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん看護の基盤となる概念や理論、および緩和医療の知識を活用した事例分析や看護介入モデルの展開を通して、緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を学修することを授業目標とした。がん看護に関連する上記の諸理論を用いて実践事例を分析し、発表と討議を通して自己の看護観を考究した。また実践事例が有する健康課題を的確に捉える視点を、がん看護に関連する理論や概念を用いて看護介入モデルを作成し、プレゼンテーション、討議を通して実践への適用を検証及び考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師4名が担当した。

【がん看護学講義Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

がん診断期から終末期に至る様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対するグリーフケアを含め、緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供するために有用な資源、および資源の活用も含めた専門的な看護援助方法を理解することを授業目標とした。各治療時期（周手術期、化学療法、放射線療法、遺伝性のがん看護、長期療養過程にある看護、終末期にある看護、グリーフケア、地域看護）の様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供する看護支援方法を、各専門領域の講師より最新知見の提供を受けた。またがん看護専門看護師が果たすべき役割機能として探求するため、実践事例に基づきプレゼンテーション、討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師5名が担当した。

【がん看護学演習Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

緩和ケアに関するキュアとケアの方法について実践事例や国内外の文献をレビューし、キュアとケアを統合しエビデンスに基づいた緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を理解することを授業目標とした。様々な健康課題を抱えるがん患者・家族に緩和ケアを提供するための専門的な看護支援の実際を、CNSの6つの機能（実践、教育、相談、調整、倫理、研究）に基づき実践事例や国内外の文献を検討し、質の高い緩和ケア提供方法を探究するため、プレゼンテーション、討議を通して、がん看護や緩和ケアにおける課題や展望について考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師2名が担当した。

【がん看護学演習Ⅳ】（1年次後期科目）2単位

がん診断期から終末期に至る複雑で困難な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対して、緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程を理解する。またがん相談技法やがん患者教育的技法を模擬患者などのシミュレーション方法を活用し緩和ケアの包括的介入方法を理解することを授業目標とした。がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対してキュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程を系統的かつ包括的に探究するため、緩和ケアに関連する実践事例の展開お

よび症状アセスメント方法についてプレゼンテーション、討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原が担当した。

2) その他 看護学部教育に関連する教育概要

(1)がん看護学に関連する教育概要

がん看護学（2年次後期科目、4年次後期科目1単位：選択）の科目責任者を本田が務めた。学習目的は、対象ががんを患う意味と、生命・生活への支障・影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を学習することである。がんの特徴やがん治療の特徴、各健康時期（診断期から終末期に至るまで）のがん患者とその家族への看護の実際、がんに伴う症状（痛み、リンパ浮腫、倦怠感等）が生活・生命に与える影響と必要な緩和ケアについて、主に講義形式で授業をすすめた。またがん体験者によるがんと共に生きる患者の生活の理解についてがん体験者による講義も行った。

履修した学生は51名で、授業は、3名の非常勤講師、教育支援者1名、成人看護学准教授1名、本田が担当した。

(2)がん看護学以外の担当教育概要

本田は、基礎看護学関連科目（主に1年、2年次、4年次）11科目、小原は、成人看護学関連科目（主に2、3、4年次）8科目を担当した。他総合分野として、

看護基礎セミナー（1年次前期科目1単位：必修）では、7～8名の学生を対象にセミナー形式ですすめていった。総合実習（4年次前期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後期科目6単位：必修）は、10名の学生を対象に前期の一部は全員にて文献検討をおこない、その後研究テーマ別に5名ずつのグループに分かれ、グループ指導および個別指導をおこなった。

老年・地域看護管理領域 「老年看護管理学」

教授 宮林 幸江

1. スタッフの紹介

教授 宮林 幸江

准教授 浜端 賢次

2. 教育への概要

対象高齢者の多くが健康障害と折り合いをつけつつ、家族（独居）、または施設を活用し生きる生活者である。基盤となる生活の場が変化しつつも治療・加療環境の維持・継続やマネジメントを可能とする他部門との協働や必要な実践について理解するばかりでなく、クリエイティブな実践法や制度について探求していくことを目指し、地域で生活する健康障害を持つ高齢者とその家族に対し健康的な生活を支援でき、かつ健康な高齢者の健康保持・増進にも積極的に寄与する看護管理能力の取得を目指した人材の育成を教育目標としている。

弱体・衰退化から死別へと向かう老年期の発達最終過程にある姿は、これもまた万人の通過点であり、高齢者の最終の姿である。多死社会に向けて、最後のケアのあるべき形を新視点・至誠、そしてとらわれない思考と実践力を目指して教育目標を展開している。

老年・地域看護管理学領域 「地域看護管理学」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

准教授 鈴木久美子

准教授 塚本 友栄

2. 教育の概要

地域看護管理学の履修者は、2年生は3名（2年目1名，3年目2名）で全員が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり，地域ケア体制づくり，その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し，地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い，地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は，「地域看護管理学特別演習」（4単位，春山，鈴木，塚本担当），「老年・地域看護管理学特別研究」（6単位）であった。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は，地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し，研究を計画することである。2年生1名が履修した。文献検討，並びに，学生自身の研究テーマと関連させて，山村過疎豪雪地域を有する県内1市及びへき地医療拠点病院でフィールドワークを行い，ゼミと個別指導により，研究計画を精練した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生2名の研究指導を行い，鈴木，塚本が各1名の研究指導を補助した。

修士論文のテーマは「地域ケアネットワーク構築後のネットワーク事業の進行管理における保健所保健師の活動方法」及び「初回のレスパイト入院の利用がALS患者の療養生活に及ぼす影響」であった。

共通科目

大学院看護学研究科 半澤 節子

看護学研究科の教育課程において、看護学の高度専門職に求められる看護実践能力の育成強化を目指し、教育課程を構成し、「共通科目」と「専門科目」を置いている。平成26年度に開講された共通科目は、必修科目として「看護管理・政策論」（2単位）の1科目を開講した。また、選択科目として「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」「地域調査法」「地域医療論」（各2単位）の9科目を開講した。共通科目はいずれも、原則として1年次を配当年次としている。なお、このうち、「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」のすべての科目、加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」のうち3科目以上を選択し、計14単位以上を履修することが、専門看護師教育課程の認定の要件となっている。

1. 必修科目

【看護管理・政策論】

本科目は、科目責任者を春山早苗教授として、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、並びに看護職の資質向上のために制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することを目標とし、保健医療福祉システムの中で質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割、医療チーム内の調整や関係者間の調整、管理的立場にある看護職との協働、制度改革への高度実践看護職の働きかけについて教授した。

2. 選択科目

【病態生理学特論】

本科目は、科目責任者を北田志郎准教授として、日常的によくみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、エビデンスに基づいた病態生理学的状態を判断するために必要な知識と技術を習得することを目標とし、事例演習を交えて教授した。

【フィジカルアセスメント特論】

本科目は、科目責任者を中村美鈴教授として、高度実践看護職として、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得することを目標とし、シミュレーター学習を取り入れ、特に複雑な病態に対する臨床判断プロセスを磨く技能を教授した。

【臨床薬理学特論】

本科目は、科目責任者を大塚公一郎教授として、薬剤の人体における作用機序、体内動態、有益な効果と有害な効果、薬剤使用の判断を理解し、投与後の患者のモニタリング、患者の服薬管理など専門看護師に実践について考えられることを目標とし、そのための臨床薬理学の基礎知識と看護職による薬剤調整に関する知識と技術を教授した。

【看護実践研究論】

本科目は、科目責任者を半澤節子教授として、看護分野における研究の発展について理解し、自らの臨床経験を踏まえながら、先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し、適切な研究方法とその展開方法について理解することを目標とし、研究計画書作成への基礎的知識について教授した。

【コンサルテーション論】

本科目は、科目責任者を永井優子教授として、コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討することを目標とし、ロールプレイやコンサルテーション体験に基づいて、高度実践看護職が必要とする技能と役割について教授した。

【看護倫理】

本科目は、科目責任者を小原泉准教授として、医療現場における生命倫理の現実的な課題と看護職の倫理的行動、および看護場面での複雑な判断を要する倫理的課題について、関係職種間の調整、提言など看護専門職の立場から果たすべき機能について理解することを目標として、必要な知識、および高度実践看護職が果たすべき機能について教授した。

【看護継続教育論】

本科目は、科目責任者を本田芳香教授として、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして、様々な学習形態をとる教育環境づくりの方策、基盤となる教育的かかわりの方策を理解することを目標として、関連する知識と技術を教授した。

【地域調査法】

本科目は、科目責任者を渡邊亮一教授として、地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法、並びに収集した資料やデータの分析方法、結果の読み方などを理解することを目標として、効率的な看護活動・保健活動やその管理的活動を展開する上で必要な地域の健康問題やニーズを把握するための質的・量的調査法について講義や演習を通じて教授した。

【地域医療論】

本科目は、科目責任者を北田志郎准教授として、地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することを目標として、地域ニーズの捉え方、ニーズに即した医療提供の方法、地域の保健医療福祉施設の有機的な連携、医療資源のアウトソーシングの実際について教授することとしてしているが、平成26年度については、本科目の履修登録者がいなかったため開講されなかった。

博士後期課程 広域実践看護学分野

研究科長 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗	教授 中村 美鈴
教授 永井 優子	教授 成田 伸
教授 半澤 節子	教授 本田 芳香
教授 宮林 幸江	教授 野々山未希子
教授 大塚公一郎	教授 渡邊 亮一
准教授 小原 泉	准教授 塚本 友栄
准教授 横山 由美	講師 飯塚 秀樹

2. 教育の概要

博士後期課程は開設3年目となり、1年生、2年生、3年生、各2名で、全員が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」（2単位、必修）、「広域実践看護学特論Ⅱ」（2単位、選択）、「広域実践看護学演習」（2単位、必修）、「広域実践看護学特別研究」（6単位、必修、1～3年次）であった。専門関連科目の開講科目は「異文化精神医療論」（2単位、選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）春山・成田担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をととして、看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント、施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。1年生2名が履修。

【広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）中村・横山担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をととして、看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法について批判的に吟味し、クリニカルケアにおける新たな看護実

践を創出するための研究方法を探究する。1年生2名が履修。

【広域実践看護学演習】

本科目では、先行研究の知見の総括・評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画に反映できる学修となることを目指す。

1年生2名ともが、システムに関するテーマについては＜ヘルスケアシステム＞（春山・本田担当）を、看護ケアに関するテーマについては＜クリニカルケア＞（中村・小原・横山担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

研究指導教員を表に示す。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは6月、9月、11月、1月に開催した。博士後期課程の学生は、セミナーで毎回、特に、11月、1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討等について、研究指導教員以外の教員にも助言を得たり、博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

表 研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
1	A	春山	中村・渡邊
	B	中村	永井・本田
2	A	永井	春山・本田
	B	成田	半澤・本田
3	A	春山	永井・本田
	B	成田	中村・春山

【異文化精神医療論 大塚・飯塚担当】

本科目では、異文化精神医療に関する研究構想に繋げるための基本的知識を修得し、精神医学的視点からみた異文化メンタルヘルス研究について学ぶ。また、隣接科学における最近の異文化研究の知見や異文化コミュニケーションにおける言語の役割についても学修する。

1年生2名、2年生1名が履修した。

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2014年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 論文

- 1) Hideki Iizuka : An application of the Consecutive Interpreting Approach to English for medical purposes (EMP) . Journal of Medical English Education, 13(1);15-23, 2014.
- 2) Hirao A., Kawarasaki T., Konno K., Enya S., Shibata M., Kangawa A., Kobayashi E.: Green fluorescent Protein (GFP) expression patterns in the olfactory epithelium of GFP transgenic cloned pigs. *Acta Zoologica*, 95; 319-329, 2014.
- 3) Iizuka Y., Nakayama K., Ogawa A., Makishima S., Boonvisut S., Hirao A., Iwasaki Y., Yada T., Yanagisawa Y., Miyashita H., Takahashi M., Iwamoto S: TRIB1 downregulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions. *J Mol Endocrinol* 52; 145-158, 2014.
- 4) 大塚公一郎：文化と非定型精神病－祈禱性精神病の生態学的ニッチ－. 精神医学史研究, 18(1);65-71, 2014.
- 5) 北田志郎：伝統医学と多文化間精神医学を在宅医療に応用することの可能性. こころと文化, 13;10-18, 2014.

(2) 学会発表

- 1) Akiko Nosaki, Koichiro Otsuka : Symptoms of Post-traumatic Stress Disorder among Brazilian People Living in Japan Following the Great East Japan Earthquake. The 9th International Conference on Early Psychosis, Tokyo. November 17-19, 2014. (Early Intervention in Psychiatry 8(Suppl. 1);128, November 2014)
- 2) Akiko Nosaki, Koichiro Otsuka : Psychological impact of Great East Japan Earthquake for Japanese-brazilian people living in Japan. The 16th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, Vancouver, Canada. October 6, 2014.
- 3) Akiko Nosaki, Koichiro Otsuka : Mental health of foreign residents in Japan ; a literature review. XVI World Congress of Psychiatry, Madrid. September 14-18, 2014.
- 4) Hideki Iizuka : Application of the

Consecutive Interpreting Approach to English for medical purposes. The 17th Japan Society for Medical English Education (JASMEE) Academic Meeting, Tokyo Garden Palace, Tokyo. July 19, 2014.

5) Hideki Iizuka : An application of the Consecutive Interpreting Approach to EFL students : how it affects English proficiency and how the students view the experience. British Association for Applied Linguistics (BAAL) 47th Annual Conference, University of Warwick, the U.K. September 6, 2014.

6) Hideki Iizuka : Consecutive Interpreting Approach. Japan Association for Language Teaching (JALT) 2014 Conversation Across Borders Conference, Tsukuba International Congress Center (Epochal Tsukuba), Tsukuba. November 24, 2014.

7) 野崎章子, 大塚公一郎：在日ブラジル人の東日本大震災における被災体験と心的外傷後ストレス障害 (PTSD). 第21回多文化間精神医学会学術総会, 長崎. 2014年5月24日. (プログラム・抄録集 83, 2014)

8) 菅原一晃, 大塚公一郎：腎移植ドナー面接. 第110回日本精神神経学会学術総会, 横浜. 2014年6月26日. (プログラム・抄録集 47, 2014)

9) 大塚公一郎, 稲垣 諭：眼差し・声・規範の観点からみたアスペルガー障害における反社会的行為. 第37回日本精神病理・精神療学会, 東京. 2014年10月5日. (プログラム・抄録集 61, 2014)

10) 北田志郎, 大塚公一郎, 武田直己, 川越正平, 加藤 敏：身体合併症を持つ統合失調患者へのアウトリーチー「GP－精神科医－多職種訪問チームモデル」の意義と可能性－. 第33回日本社会精神医学会, 東京. 2014年3月21日. (日本社会精神医学会雑誌 23;261-262, 2014)

11) 北田志郎, 大塚公一郎, 加藤 敏：訪問診療で出会う患者を代理するかのよう妄想像観念を抱く家族. 第21回多文化間精神医学会, 長崎. 2014年5月24日. (こころと文化 13;177, 2014)

12) 北田志郎：内科標榜往診専門クリニックの立場から. 第14回日本外来精神医療学会, シンポジウム「施設特性からみた精神科アウトリーチ」, 宇都宮. 2014年7月12日. (第14回日本外来精神医

療学会抄録集 41, 2014)

13) 北田志郎：サイコオンコロジーに期待すること。第27回日本サイコオンコロジー学会，シンポジウム「在宅医療におけるサイコオンコロジーとの連携を考える」，東京．2014年10月4日．（第27回日本サイコオンコロジー学会抄録集 52, 2014)

14) 飯塚秀樹：Consecutive Interpreting Approach の実践－その課題と評価方法－．2014年度第2回通訳教育指導法研究プロジェクト研究会，東京．2014年6月29日．

15) 平尾温司，前原寛子，竹田 努，杉田昭栄：ハシブトガラス（*Corvus macrorhynchos*）の盲腸に関する形態学およびレクチン組織化学的研究．第157回日本獣医学会総会，北海道大学高等教育推進機構．2014年9月9日．

(3) 著書・総説

1) 北田志郎：認知症のステージアプローチ．家庭医療学，老年医学，緩和医療学の3領域からアプローチする在宅医療バイブル（川越正平編著）．日本医事新報社，pp.165-173, 2014.

2) 北田志郎：東洋医学．家庭医療学，老年医学，緩和医療学の3領域からアプローチする在宅医療バイブル（川越正平編著）．日本医事新報社，pp.272-276, 2014.

3) 北田志郎：居住系施設における在宅医療．家庭医療学，老年医学，緩和医療学の3領域からアプローチする在宅医療バイブル（川越正平編著）．日本医事新報社，pp.488-492, 2014.

4) 北田志郎：高齢者の漢方薬の使い方．スーパー総合医 高齢者外来診療（和田忠志編著）．中山書店，pp.313-320, 2014.

(4) 実践報告

1) Hideki Iizuka：The Consecutive Interpreting Approach and its effects on L2 written reproduction. Interpreting and Translation Studies, The Journal of the Japan Association for Interpreting and Translation Studies, 14:259-276, 2014.

(5) その他

1) 渡邊亮一：病院概論．「ホスピタルエンジニア認定のための講習会テキスト（第3版）」所収．

pp.1-4, 一般社団法人日本医療福祉設備協会，2014.

2) 岡本悦司，小橋 元，坂田清美，佐藤敏彦，西浦 博，横山英世，岡田充史，尾島俊之，亀崎豊実，高橋美保子，富田敦子，山本秀樹，渡邊亮一：サブノートF第38版 保健医療論・公衆衛生学（2015年版）．Medic Media, 2014.

3) 大塚公一郎：書評『メラニー・クライン―苦痛と創造性の母親殺し』，こころと文化，13:61-63, 2014.

4) 北田志郎：在宅医療について．平成26年度私立医科大学看護系事務長会，仙台．2014年9月11日．

5) 北田志郎：在宅医療における漢方治療．第51回自治医科大学東洋医学研究会，下野．2014年10月8日．

6) 飯塚秀樹：これからの社会を生き抜くために－語学教師の視点から－．栃木県立小山西高等学校平成25年度教育講演会，小山．2014年3月18日．

7) 飯塚秀樹：通訳訓練法に基づいたConsecutive Interpreting Approachの指導法．文部科学省後援ELEC夏期英語教育研修会，東京．2014年8月6日．

8) 平尾温司，佐々木航弥，竹田 努，杉田昭栄：ハシブトガラス（*Corvus macrorhynchos*）尾腺の動態変化について．第2回カラスシンポジウム，宇都宮．2014年11月1日．

9) 平尾温司，佐々木航弥，竹田 努，杉田昭栄：ハシブトガラス尾腺の形態について．第11回とちぎ野生動物研究交流会，宇都宮．2014年3月5日．

基礎看護学

(1) 学会発表

1) 里光やよい, 本田芳香, 湯山美杉, 飯塚由美子, 岩永麻衣子, 若澤弥生, 浅田義和; 看護過程演習にマインドマップを活用したアセスメント力の変化, 第6回医療教授システム学会, 第6回医療教授システム学会総会プログラム・抄録集; 41p, 2014

2) 川上 勝, 村上礼子, 中村美鈴, 里光やよい, 柴山真里; 看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割 - 病棟急変場面における声かけ -

第6回医療教授システム学会, 第6回医療教授システム学会総会プログラム・抄録集; 39p, 2014

3) 村上礼子, 川上勝, 柴山真里, 里光やよい, 小林京子, 中村美鈴; 看護学生対象の効果的なICLSコース技術習得の試みについて, 日本看護学教育学会第24回学術集会, 日本看護学教育学会第24回学術集会講演集109p, 2014

4) 湯山美杉, 本田芳香, 里光やよい, 若澤弥生, 飯塚由美子, 岩永麻衣子; 看護対象への関心を育むことを目的に作成した看護過程紙上事例を用いた学習の有用性の検討. 日本看護学教育学会第24回学術集会講演集; 143p, 2014.

5) 飯塚由美子, 本田芳香, 里光やよい, 山本真由美, 若澤弥生, 岩永麻衣子, 湯山美杉; 急性骨髄性白血病看護のナラティブな語りを活用した紙上事例の教材開発. 日本がん看護学会誌 (0914-6423) 28巻Suppl. p197, 2014.

6) 飯塚由美子, 本田芳香; 外来で継続治療を受けながら疼痛管理をするがん患者への専門看護師のチーム調整プロセス. 第18回日本在宅ケア学会学術集会, 183p, 2014

(2) その他

1) 里光やよい: 週間医学界新聞 第3073号
2014年4月21日 Medical Library 書評・新刊案内

看護教員ハンドブック 古橋洋子 編 医学書院

2) 2014年度日本看護学教育学会研究助成「看護系大学の教員が行う臨地実習時の指導行動に関する研究」(若澤弥生, 2014年)

地域看護学

(1) 論文

1) 菊地 陽, 塚本友栄, 横山由美, 永井優子, 春山早苗, 塚原節子:へき地医療拠点病院と一般病院における教育研修制度のニーズとその障害となっているもの. 日本ルーラルナースング学会誌, 9:37-46, 2014.

2) 江角伸吾, 山田明美, 中島とし子, 鈴木久美子, 塚本友栄, 島田裕子, 関山友子, 青木さぎ里, 菊地 陽, 春山早苗:へき地診療所における看護師の診療の補助行為の実施状況-12項目の特定行為(案)に着目して-. 日本ルーラルナースング学会誌, 9:47-56, 2014.

(2) 学会発表

1) 青木さぎ里, 江角伸吾, 関山友子, 島田裕子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗:「夏季へき地体験研修」を受講した学生が抱くへき地に対する認識の変化. 日本ルーラルナースング学会第9回学術集会, 岩手. 2014年10月4日.(日本ルーラルナースング学会第9回学術集会抄録集;43, 2014)

2) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 牛尾裕子, 石川麻衣, 駒形朋子, 丸山佳子, 中瀬克己, 岩瀬靖子:災害時の被災市町村保健活動支援に有用な迅速評価項目の検討. 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);542, 2014)

3) 平野かよ子, 福島富士子, 藤井広美, 石川貴美子, 山口佳子, 春山早苗, 小西かおる, 大神あゆみ, 荒木田美香子, 尾島俊之:保健師による保健活動の評価指標の検証(その1:母子保健活動). 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);573, 2014)

4) 藤井広美, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 尾島俊之, 小西かおる, 春山早苗, 福島富士子, 山口佳子, 平野かよ子:保健師による保健活動の評価指標の検証(その2:健康づくり活動). 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);574, 2014)

5) 石川貴美子, 荒木田美香子, 大神あゆみ, 尾島俊之, 小西かおる, 春山早苗, 平野かよ子, 福

島富士子, 藤井広美, 山口佳子:保健師による保健活動の評価指標の検証(その3:高齢者保健福祉活動). 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);574, 2014)

6) 山口佳子, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 尾島俊之, 小西かおる, 春山早苗, 平野かよ子, 福島富士子, 藤井広美:保健師による保健活動の評価指標の検証(その4:精神保健福祉活動). 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);574, 2014)

7) 春山早苗, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 尾島俊之, 小西かおる, 平野かよ子, 福島富士子, 藤井広美, 山口佳子:保健師による保健活動の評価指標の検証(その5:感染症対策). 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);574, 2014)

8) 小西かおる, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 尾島俊之, 春山早苗, 平野かよ子, 福島富士子, 藤井広美, 山口佳子:保健師による保健活動の評価指標の検証(その6:難病保健活動). 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);575, 2014)

9) 大神あゆみ, 荒木田美香子, 石川貴美子, 尾島俊之, 小西かおる, 春山早苗, 平野かよ子, 福島富士子, 藤井広美, 山口佳子:保健師による保健活動の評価指標の検証(その7:産業保健). 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);575, 2014)

10) 江角伸吾, 青木さぎ里, 島田裕子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗:へき地診療所看護職の役割拡大に関する課題~特定行為に着目して~. 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木. 2014年11月7日.(第73回日本公衆衛生学会総会抄録集61(10);576, 2014)

11) 江角伸吾, 服部律子, 高村寿子:思春期ピアカウンセラー養成講座受講による若者の変化-社会的スキルに着目して-. 第33回日本思春期学会総会・学術集会, つくば市, 2014年8月31日(第33回日本思春期学会総会・学術集会抄録集;98, 2014)

12) 服部律子, 江角伸吾, 安達久美子, 前田ひとみ, 渡辺純一: 思春期ピアカウンセラー養成講座受講による若者の変化. 第33回日本思春期学会総会・学術集会, つくば市, 2014年8月31日 (第33回日本思春期学会総会・学術集会抄録集; 98, 2014)

(3) 著書・総説

1) 春山早苗: 第3章 健康危機管理 2) 感染症保健, アウトブレイク, パンデミック, 公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動I (岡本玲子責任編集, 荒木田美香子, 麻原きよみ, 佐伯和子 編集). 医歯薬出版 (東京), 214-231, 2014.

2) 鈴木久美子: 第1章 公衆衛生看護学概論 第II節 公衆衛生看護の歴史 第1項 保健婦規則制定以前の地域における看護活動. 最新公衆衛生看護学 第2版 2014年版 総論 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 24-31, 2014.

3) 春山早苗: 第1章 公衆衛生看護学概論 第II節 公衆衛生看護の歴史 第2項 保健婦規則制定以後の保健婦活動 第3項 ヘルスニーズに対応した保健婦活動の確立. 最新公衆衛生看護学 第2版 2014年版 総論 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 31-71, 2014.

4) 春山早苗, 平山朝子: 第1章 公衆衛生看護学概論 第III節 ヘルスケアシステムの中で機能する看護. 第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第IV節 地域ケア体制づくり 第1項~第3項の1. 最新公衆衛生看護学 第2版 2014年版 総論 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 72-103, 299-325, 2014.

5) 春山早苗: 第2章 健康課題の特性に応じた活動論 第IV節 感染症保健福祉活動 第1項~第5項. 最新公衆衛生看護学 第2版 2014年版 各論1 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 262-304, 2014.

6) 春山早苗: 第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第1項 へき地における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第2版 2014年版 各論2 (宮

崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 146-160, 2014.

7) 塩ノ谷朱美, 春山早苗: 第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第3項 山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第2版 2014年版 各論2 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 181-189, 2014.

8) 青木さぎ里: 第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第2項 離島における公衆衛生看護活動の4離島における保健師活動の実践. 最新公衆衛生看護学 第2版 2014年版 各論2 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 171-180, 2014.

9) 塚本友栄: 第II部実践編 第6章 さまざまな看護場面に活かすコミュニケーション・スキル 第6節 地域看護領域 対象の表現を促し、支援ニーズを理解するためのコミュニケーション・スキル. 看護に活かすカウンセリングI (伊藤まゆみ編集). ナカニシヤ出版 (東京), 113-122, 2014.

(4) 実践報告

1) 関山友子, 青木さぎ里, 千葉理恵, 島田裕子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗, 塩ノ谷朱美, 金子敬子, 白井雅子, 白井優子, 石川定子: 市町村における新人保健師の入職後1年間に経験した実践内容と到達目標の主観的達成度. 自治医科大学看護学ジャーナル, 11; 35-43, 2014.

(5) 資料

1) 浜端賢次, 江角伸吾, 島田裕子, 安藤 恵, 黒尾絢子, 柴山真里, 北田志郎, 大塚公一郎, 春山早苗, 新海恵里, 渡邊瑠美: 自治医科大学看護学部卒業生の現状調査-看護職を継続するための要因に着目した一考察-. 自治医科大学看護学ジャーナル, 11; 65-73, 2014.

(6) その他

1) 春山早苗: 感染症対策にかかわる保健活動の評価指標の検証. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業 (政策科学推進研

究事業）「保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究」総括・分担研究報告書，167-184，2014.

2) 荒木田美香子，**春山早苗**，上野まり，佐藤紀子，澤井美奈子，椎葉倫代，筑波優子，三森寧子：小規模職場で働く看護職の現任教育の課題と対策．日本地域看護学会第17回学術集会ワークショップ1，岡山．2014年8月2日．（日本地域看護学会第17回学術集会講演集，35，2014）

3) **青木さぎ里**：小規模自治体に勤務する保健師の立場から，日本地域看護学会第17回学術集会ワークショップ1「小規模職場で働く看護職の現任教育の課題と対策」，岡山．2014年8月2日．

精神看護学

(1) 論文

1) Chiba R, Miyamoto Y, Funakoshi A : The concept of "benefit finding" for people at different stages of recovery from mental illness; a Japanese study. Journal of mental health (Abingdon, England) 23 (1) 20-24 2014

2) Chiba R, Miyamoto Y, Kawakami N, Harada N : Effectiveness of a program to facilitate recovery for people with long-term mental illness in Japan. Nursing & health sciences 16 (3) 277-283 2014

3) Ishii Shinichiro, Nakashima Fuyuko, and Umezaki Setsuko: Creating Vignettes for Measuring the Clinical Judgment of Nurses. International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences, 19 (1) : 1-6, 2014.

4) 宇佐美しおり, 田中美恵子, 永井優子, 相澤和美, 岡谷恵子, 小山達也, 福川麻耶, 精神看護実践における倫理的課題と対処方法の実態, 日本精神保健看護学会学術連携委員会 日本精神保健看護学会誌23 (1), 112-131, 2014.06

5) 菊地 陽, 塚本友栄, 横山由美, 永井優子, 春山早苗, 塚原節子: へき地医療拠点病院と一般病院における教育研修体制のニーズとその障害となっているもの, 日本ルーラルナースング学会誌 9, 37-46, 2014.0)

6) 池田朋広, 小池純子, 幸田 実, 稲本淳子, 森田展彰: 物質使用障害と精神病性障害を併せ持つ者への地域支援策の検討ー薬物依存症リハビリテーション施設への全国調査から, 日本アルコール・薬物医学会雑誌49 (6), 340-355, 2014

7) 池田朋広, 小池純子, 森田展彰, 山本和弘, 合川勇三, 松本俊彦, 稲本淳子: 措置入院指定病院の立場における違法物質使用障害者への退院支援策の検討ー司法処遇と薬物採尿検査に着目した4事例からー, 日本アルコール・薬物医学会雑誌 49 (1), 45-56, 2014

8) 池田朋広, 小池純子, 森田展彰, 合川勇三, 松本俊彦, 稲本淳子, 岩波 明: 措置入院指定病院に入院する違法物質使用障害者の実態調査 退院時における逮捕群と非逮捕群との比較から, 日本社会精神医学会雑誌 23 (2), 112-122, 2014

(2) 学会発表

1) 宇佐美しおり, 岡谷恵子, 野末聖香, 田中美恵子, 相澤和美, 永井優子, 小山達也, 福川麻耶: 退院後早期の再入院予防を目的とした精神看護専門看護師による気分障害患者への療養マネジメントの評価, 日本看護科学学会学術集会講演集 34回 500 (2014.11) \

2) 松本珠実, 黒橋真奈美, 朽木悦子, 小西美香子, 西畠知子, 馬場順子, 半澤節子, 福原 円, 横山美江: 保健師がソーシャルキャピタルの醸成を図るために必要な条件や要件について (第1報), 日本公衆衛生学会総会抄録集73回 481 (2014.10)

3) 馬場順子, 黒橋真奈美, 朽木悦子, 小西美香子, 西畠知子, 半澤節子, 福原 円, 松本珠実, 横山美江: ソーシャルキャピタルの醸成にかかる公衆衛生看護活動について (第2報) 日本公衆衛生学会総会抄録集73回 481 (2014.10)

4) 小西美香子, 黒橋真奈美, 朽木悦子, 西畠知子, 馬場順子, 半澤節子, 福原 円, 松本珠実, 横山美江: ソーシャルキャピタルの醸成にかかるスキルについて (第3報) 日本公衆衛生学会総会抄録集 73回 481 (2014.10)

5) ソーシャルキャピタルの醸成を目指した市町村の保健活動のあり方について (第4報) (会議録) 西畠知子, 黒橋真奈美, 朽木悦子, 小西美香子, 馬場順子, 半澤節子, 福原 円, 松本珠実, 横山美江: 日本公衆衛生学会総会抄録集 73回, 482 (2014.10)

6) 千葉理恵: 逆境を経験した人へのベネフィット・ファインディング促進の介入に関する文献検討, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木 2014.11.

7) 千葉理恵: ベネフィット・ファインディングとその近接概念の評価尺度開発の現状と課題: 文献レビュー, 日本精神保健看護学会 第24回学術集会・総会, 神奈川 2014.6.

8) 石井慎一郎: 精神科看護師の身体的拘束の見込みに関する研究, 第4回日本看護評価学会学術集会, 東京. 2014年3月4日. (第4回日本看護評価学会学術集会プログラム・講演集; 36, 2014)

9) 石井慎一郎: 精神科看護師の感情指数の特徴, 第4回日本看護評価学会学術集会, 東京. 2014年3月4日. (第4回日本看護評価学会学術集会プログラム・講演集; 37, 2014)

10) 石井慎一郎, 中島富有子, 森 直美, 川野豊, 重富 勇: 精神科看護師と精神科以外の看護

師の感情指数の比較（中間報告）.第33回日本社会精神医学会，東京．2014年3月20日．（日本社会精神医学会雑誌，23（3）；267，2014）

11) 石井慎一郎，森 直美，中島富有子，川野 豊，重富 勇 看護師と一般住民の感情指数の比較（中間報告）第33回日本社会精神医学会，2014年3月20日．（日本社会精神医学会雑誌，23（3）；232，2014）

12) 石井慎一郎：20代精神科看護師の感情と身体的拘束の見込みに関する研究-Study on the likelihood of physical restraints and emotional intelligence of young psychiatric nurses. 日本感情心理学会第22回年次学術大会栃木．（2014年5月31日. Supplement; 43, 2014）

13) 立元幸恵，倉成千絵，有吉ゆかり，石井慎一郎，牟田和男：高齢者における眼感染症予防への取り組み－眼脂減少を目指して－．第56回全日本病院学会，福岡，2014年9月20日．（第56回全日本病院学会プログラム集; 517, 2014）

14) 石井慎一郎：精神科看護師の感情と内省に関する研究．第27回日本保健福祉学会学術集会，東京．2014年10月26日．（第27回日本保健福祉学会学術集会抄録集; 22, 2014）

15) 上田真史，中島富有子，倉成由美，石井慎一郎：統合失調症患者の入院から訪問看護に至る継続的な認知行動療法的アプローチ．第21回日本精神科看護学術集会専門学会Ⅱ，北海道．2014年11月29日．（日本精神科看護学術集会誌，57（3）；221-225, 2014）

16) 石井慎一郎，中島富有子，森 直美，杉田百合子，須田幸治，平尾光史：精神科看護師の感情指数の実態調査－対象者の年代及び資格，学歴における感情指数の特性－．第21回日本精神科看護学術集会専門学会Ⅱ，北海道．2014年11月29日．（日本精神科看護学術集会誌，57（3）；309-313, 2014）

17) 伊勢田千康子，倉成由美，中島富有子，石井慎一郎：経済的な不安が強い適応障害患者に対する認知行動療法の効果．日本精神科看護協会佐賀県支部 平成26年度看護研究発表，2014年10月3日，佐賀．（一般社団法人日本精神科看護協会佐賀県支部 プログラム集; 25-26, 2014）

18)

(3) その他

1) 宮城純子，板橋直人，清水 みどり，半澤節子，岡 由弘：触法精神障害者を含む精神障害者の社会復帰に関する研究 栃木県内の訪問看護の実態調査から，自治医科大学看護学ジャーナル11, 87（2014.03）

2) 板橋直人，宮城純子，小池純子，半澤節子，永井優子，海発規夫：精神科看護職者の仕事の認識と患者に示す感情が心身に及ぼす影響について ワーク・エンゲイジメントと看護師の感情労働，健康関連QOLとの関連に着目して，自治医科大学看護学ジャーナル11, 93,（2014.03）

3) 中島富有子，皿田洋子，石井慎一郎：認知行動療法を専門とする院内認定看護師育成プログラム．精神科看護，（260）；58-66, 2014.

4) 石井慎一郎：私を変えたできごと．統合失調症のひろば, 4（秋）；113-116, 2014.

5) 小池純子，宮城純子，池田朋広，半澤節子，黒田治，中谷陽二：【医療観察法とその周辺－症例と取り組み】触法精神障害者家族の現状と支援－文献的一考察．臨床精神医学43（9），1345-1351, 2014

6) 小池純子，針間博彦，宮城純子，森田展彰，中谷陽二：触法精神障害者の長期入院例 社会復帰阻害要因に焦点をあてて．精神医学56（11），931-940, 2014

母性看護学

(1) 論文

1) 角川志穂：初孫を迎える祖父母に対する教育プログラムの開発と評価－子どもの両親との役割関係葛藤の解消に向けて－. 岩手県立大学看護学研究科, 2014. (博士論文)

(2) 学会発表

1) R. Kudo, S.Narita: Barriers to visiting gynecological clinics in Japan. The 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014.5.24.

2) A. Mochizuki, S. Narita: Review of the status of support for women's health problems in incarcerated women in Japan - practical report on women's health educational lectures before prison release -. The 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014.5.24.

3) R.Kudo, H.Sato, A.Ueki, A.Mochizuki, S.Narita: Continued Postpartum Support in Japan for Women who had Gestational Diabetes Mellitus: status and issues as seen in an examination of relevant literature. The 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014.5.24.

4) 遠藤俊子, 松原まなみ, 成田 伸：臨床・教育機関の連携による母性看護専門看護師活動の実際. 第16回日本母性看護学会学術集会, 京都, 2014.6.28.

5) H. Sato, Y.Kobayasi, R.Kudo, A. Ueki, S. Narita: Continued Postpartum Support in Japan for Women who had Gestational Diabetes Mellitus: status and issues as seen in an examination of relevant literature. 第13回自治医科大学シンポジウム, 下野市, 2014.9.5. (第13回自治医科大学シンポジウムポスターセッション抄録, p.52) .

6) A. Mochizuki, S.Narita: Review of the status of support for women's health problems in incarcerated women in Japan; Practical report on women's health educational lectures before prison release. 第13回自治医科大学シンポジウム, 下野市, 2014.9.5. (第13回自治医科大学シンポジ

ウムポスターセッション抄録, p.53) .

7) 西岡啓子, 成田 伸：子育てをしながら不妊治療を受ける女性の体験. 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉, 2014.9.13.

8) 角川志穂：初孫を迎える祖父母と子どもの両親との役割関係葛藤の解消に向けて－家族学級におけるグループワークの効果－. 母性衛生, 55 (3); 211, 2014.

9) 角川志穂：初孫を迎える祖父母に対する教育プログラムの実施と評価－子どもの両親との役割関係葛藤の解消に向けて－. 第34回日本看護科学学会学術集会講演集, 295, 2014.

(3) 著書・総説

1) 望月明見, 成田 伸：米国における受刑者妊婦のヘルスケアの現状と課題についての文献検討. 自治医科大学看護学ジャーナル, 第11巻; 15-25, 2013.

2) 藤岡容子, 大塚和代, 森屋佳代, 柳田容子, 藤川智子, 小島由美, 相田美智子, 武藤香子, 成田 伸：栃木県助産師会会員グループによる地域での子育て支援活動. 栃木母性衛生, 第40号, 48-51, 2014.

3) 齋藤益子, 野々山末希子, 他：性の健康相談のためのガイドブック. 中央法規, 2014年4月.

(4) 実践報告

1) 石崎仁子, 望月明見, 黒尾絢子, 柴山真里, 成田 伸：病院における新生児蘇生法の現状と今後に向けての課題. 自治医科大学看護学ジャーナル, 第11巻; 45-54, 2013.

2) 望月明見, 成田 伸：助産師による女子刑務所での女性健康支援の取り組みについて. 助産師, 68 (3); 43-45, 2014.

(5) 資料

1) 工藤里香, 成田 伸, 野々山末希子, 鈴木幸子：フィンランドにおけるSexual Health Care Systemの実際. 自治医科大学看護学ジャーナル; 第11巻, 75-97, 2013.

(6) その他

1) 野々山末希子：性暴力被害経験と性行動. 第10回川崎STI研究会, 神奈川, 2014年2月22日

2) 野々山末希子：親が希望する中学生へのメ

デИА関連性情報の教育．第48回東京思春期保健
研究会，東京．2014年11月8日

小児看護学

(1) 学会発表

- 1) Nishigaki K., Kobayashi K., Shinoki E., Yokoyama Y. Families' hopes for the future path of children with disabilities after graduation from high school: a report from the Children of Special Needs Education School Research part I. 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014, May 25-28th
- 2) Kobayashi K., Nishigaki K., Yokoyama Y., Shinoki E. Parental choice of future medical use: a report from the Children of Special Needs Education School Research part II. 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014, May 25-28th
- 3) Sonoe Tezuka, Yumi Yokoyama. Review of Literature :The Meaning of Behavior Exhibited by Children Who undergo Treatment. 17th EAFONS, Philippines, 2014, Feb 20-21th
- 4) 手塚園江, 塚本浩章, 横山由美 : A中学校におけるヘルスプロモーションの推進の実際－連携の可能性の検討－, 自治医科大学シンポジウム, 栃木, 2014, 9, 5.
- 5) 手塚園江, 塚本浩章, 横山由美 : 医療専門職による小学校での健康教育の検討, 自治医科大学シンポジウム, 栃木, 2014, 9, 5.

(2) 著書・総説

- 1) 上別府圭子, 小林京子訳 : 宅香菜子, 清水研監訳, 心的外傷後成長ハンドブック, 医学書院, 2014年1月, p148-180.

成人看護学

(1) 論文

- 1) 吉田紀子, 中村美鈴: クリティカルケア熟練看護師が見出した延命治療に関する家族の代理意思決定を支える看護実践. 日本救急看護学会雑誌, 16(2): 1-12, 2014.
- 2) 谷島雅子, 中村美鈴: DNAR (Do Not Attempt Resuscitation) を選択した入院患者の家族に対する救急看護師の実践. 自治医科大学看護学ジャーナル, 11: 5-13, 2014.
- 3) 盛上直美, 長谷川直人: 中堅看護師の自己教育力を高める要因－目標管理の視点から－. 日本看護学会論文集: 看護管理, 44: 23-26, 2014.

(2) 学会発表

- 1) Nakamura, M., Murakami, R., Yoshida, N., Dannoue, H., Momiyama, S., Ando, M. and Kohara, I.: USE OF NUTRITIONAL SUPPLEMENTS AMONG POSTOPERATIVE GASTRIC CANCER PATIENTS: EXAMINATION OF A POSSIBLE NURSING PARTNERSHIP PART I. 18th EAFONS, Manila. Feb. 21, 2014.
- 2) Nakamura, M., Murakami, R., Kohara, I., Momiyama, S., Yoshida, N., Ando, M. and Alan, L.: Nursing support for the grade of a gastric cancer patient's postoperative dysfunction and social rehabilitation in Japan. 8th International Nurse Practitioner/Advanced Practice Nursing Network Conference, Helsinki, Aug. 18-20, 2014.
- 3) Yamada E, Nakamura M.: APPROACHES FOCUSING ON RESILIENCE PARTNERSHIP FOR AN EMERGENTLY HOSPITALIZED MULTI-TRAUMA PATIENT, 17th EAFONS, Manila. Feb. 21, 2014.
- 4) Kohara, I., Morishita, N., Yamazaki, S., Koretsune, Y., Yoshio, T. and Honda, Y.: Structure of the care for patients provided by clinical trials nurses involved in oncology clinical trials. Podium Session of 2014 Oncology Nursing Society Annual Congress Anaheim, USA. May. 1-4, 2014. (Oncology Nursing Forum, 41(2): E75, 2014.)
- 5) Kohara, I., Watanabe, Y., Takenoi, S., Ueno,

M., Fujiwara, H. and Honda, Y.: Evaluating Coordination in Clinical Research Nursing Education and Practice. Poster Session of 2014 Oncology Nursing Society Annual Congress Anaheim, USA. May. 1-4, 2014. (Oncology Nursing Forum, 41(2): 170, 2014.)

6) 中村美鈴: 臨床と教育の連携強化－大学教育の立場から－, 第16回日本救急看護学会学術集会. 交流集会. 大阪, 2014年10月19日

7) 川上 勝, 柴山真理, 小林京子, 里光やよい, 村上礼子, 中村美鈴, 浅田義和: 看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割 病棟急変場面における声かけ. 第6回日本医療教授システム学会総会, 2014年3月6日. (日本医療教授システム学会総会プログラム・抄録集6: 39, 2014.)

8) 山田恵美子, 中村美鈴: クリティカルケア領域において鎮痛・鎮静コントロールを行う看護師が臨床判断をする際の葛藤とその対処方法. 第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 名古屋. 2014年5月24日. (日本クリティカルケア看護学会誌10(2): 187, 2014.)

9) 吉田紀子, 中村美鈴: 延命治療の代理意思決定に伴うクリティカルケア熟練看護師の体験. 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 栃木, 2014年6月1日. (日本臨床救急医学会雑誌17(2): 295, 2014.)

10) 樫山定美, 中村美鈴: 救急領域における患者の延命治療に対する代理意思決定を担う家族への看護実践が行えない理由. 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 栃木, 2014年6月1日. (日本臨床救急医学会雑誌17(2): 302, 2014.)

11) 小原 泉, 吉田紀子, 村上礼子, 段ノ上秀雄, 樫山定美, 安藤 恵, 中村美鈴: 看護実践の学びを統合する教授方法の課題 学生と教員の困難感の分析. 日本看護学教育学会第24回学術集会, 千葉. 2014年8月26日. (日本看護学教育学会誌24巻学術集会講演集: 112, 2014)

12) 村上礼子, 川上 勝, 柴山真理, 里光やよい, 小林京子, 中村美鈴: 看護学生対象の効果的なICLSコース技術習得の試みについて. 日本看護学教育学会第24回学術集会, 千葉. 2014年8月26日. (日本看護学教育学会誌24巻学術集会講演集: 109, 2014.)

13) 小原 泉: 臨床試験と看護 個別化医療におけるMedical Staffの役割: 他職種に知って・分かつ

て欲しいポイント 看護の立場から、第52回日本癌治療学会学術集会シンポジウム，神奈川，2014年8月28日。

14) 長谷川直人：患者－医療者関係に着目した2型糖尿病患者の受診中断経験の要因分析。第19回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，岐阜，2014年9月21日。（第19回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集18(特別号)：175，2014。）

15) 中村美鈴，浅田義和，鈴木義彦，村上礼子，小原 泉，長谷川直人，吉田紀子，樫山定美，安藤恵：交流セッション，カフェ的対話が救急看護教育の未来を輝かせる－ワールドカフェ－，第16回日本救急看護学会学術集会，2014年10月11日。

（日本救急看護学会雑誌16(3)，129，2014。）

16) 江川幸二，中村美鈴，剣持 功，他：交流セッション，倫理委員会主催，救急看護における倫理的感受性を高めよう，第16回日本救急看護学会学術集会，2014年10月11日。（日本救急看護学会雑誌16(3)，155，2014。）

17) 浅田義和，中村美鈴，村上礼子，鈴木義彦，小原 泉，段ノ上秀雄，樫山定美，吉田紀子，安藤 恵：救急看護におけるワールドカフェ参加者の学びとは 学術集会での交流集会および学部授業の実践報告。第16回日本救急看護学会学術集会，2014年10月10日。（日本救急看護学会雑誌16(3)，223，2014。）

18) 安藤 恵，川中子智絵，中村美鈴，段ノ上秀雄，村上礼子，小原 泉，樫山定美，吉田紀子：生命の危機状況を想定した看護演習の取り組みに対する評価と課題，第16回日本救急看護学会学術集会，2014年10月11日。（日本救急看護学会雑誌16(3)，201，2014。）

19) 小原 泉：CRC養成研修 上級カリキュラムの作成 国際的な質の高い臨床研究支援を目指したCRC養成・スキルアッププログラムの標準化。第35回日本臨床薬理学会シンポジウム，愛媛，2014年12月6日。

(3) 著書・総説

1) 中村美鈴：今さら聞けない看護過程 こう考えればすべてがわかる！看護過程の構成要素を押さえよう。看護人材育成，11(4)：2-6，2014。

2) 中村美鈴，土岐祐一郎，矢野雅彦，Alan T. Lefor，細谷好則：上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度。京都大学学術出版会，2014。

3) 小原 泉：Series CRC教育①看護学教育からみたCRCの育成。Clinical Research Professionals，40：2-6，2014。

4) 小原 泉：臨床試験（治験）の基礎知識と（新薬承認までの）流れ。オンコロジーナース，7(4)：91-99，2014。

(4) 実践報告

1) 村上礼子，角川志穂，塚原節子，大脇淳子，清水みどり，熊谷祐子，小谷妙子，天谷恵美子，井上佐代子，相場雅代，井上和子，加藤君子，手塚芳美：臨地実習指導研修会修了後の実習指導者の実態と今後の課題 過去7年間の研修会参加者の追跡調査をもとに，自治医科大学看護学ジャーナル，11，27-33，2014。

(5) 資料

1) 村上礼子，松浦利江子，中村美鈴，小原 泉，川名子智絵，北村露輝，段ノ上秀雄，朝野春美，福岡安子，渡辺芳江，水戸美津子：大学病院の外来に勤務する看護師が認識する外来看護実践上の課題と看護専門外来開設に向けての示唆，自治医科大学看護学ジャーナル，11，27-33，2014。

(6) その他

1) 小原 泉，村上礼子，吉田紀子，段ノ上秀雄，樫山定美，安藤 恵，中村美鈴：看護過程演習におけるグループ学習の教授方法の課題，自治医科大学看護学ジャーナル，11，101，2014。

2) 村上礼子，松浦利江子，中村美鈴，小原 泉，北村露輝，段ノ上秀雄，荒木智絵，朝野春美，渡辺芳江，前原多鶴子：自治医科大学附属病院における看護専門外来開設に向けての体制作り 他職種から見いだされる課題，自治医科大学看護学ジャーナル，11，90，2014。

3) 荒木智絵，中村美鈴，小原 泉，村上礼子，松浦利江子，北村露輝，段ノ上秀雄，関 道子，戸田昌子，弘田智香，石岡美登子：食道がん一人暮らし患者における術後機能障害にともなう困難と対処に関する研究，自治医科大学看護学ジャーナル，11，88，2014。

4) 川上 勝，中村美鈴，里光やよい，村上礼子，熊谷祐子，小林京子，荒木智絵，滝恵津，井上和子，小谷妙子，河野龍太郎，浅田義和，鈴木義彦，早瀬行治：看護学生向けICLSコースプログ

ラムの教育効果に関する研究，自治医科大学看護学ジャーナル，11，98，2014. 報告者名：演題名. 集会名，開催地. 発表年月日（西暦）.（抄録誌名 巻数(号数)；頁-頁，発行年（西暦））

5) 村上礼子，小原 泉，中村美鈴，吉田紀子，樫山定美，安藤 恵：成人看護学における看護過程の教授方法の企画評価と今後の課題，第13回自治医科大学シンポジウム，栃木，2014.

6) Nakamura, M., Murakami, R., Yoshida, N., Dannoue, H., Momiyama, S., Ando, M. and Kohara, I.: USE OF NUTRITIONAL SUPPLEMENTS AMONG POSTOPERATIVE GASTRIC CANCER PATIENTS: EXAMINATION OF A POSSIBLE NURSING PARTNERSHIP PART I. 第13回自治医科大学シンポジウム，栃木，2014.

老年看護学

(1) 論文

1) 宇城 令, 浅田義和, 井上義孝, 高山詩穂, 川上 勝: 上下肢麻痺による生活動作の困難さを体験できる装着型関節拘縮シミュレータの開発. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 2: 69-71, 2014.

(2) 学会発表

1) 宮林幸江, 浜端賢次: 遺族に続発するライフイベントと遺族らの健康—成人期と老年期の比較—. 第28回 日本がん看護学会学術集会, 新潟. 2014年2月8日. (第28回 日本がん看護学会学術集会誌 28巻特別号; 164, 2014)

2) 宮林幸江: Continuing bonds with the deceased—Meaning of reminiscences—. 35th International Association for Human Caring Conference, 京都. 2014年5月24日. (35th International Association for Human Caring Conference program book; 54, 2014)

3) 宮林幸江, 浜端賢次, 川上 勝, 清水みどり: Japanese Grief Measurement: Short Version. 35th International Association for Human Caring Conference, 京都. 2014年5月24日. (35th International Association for Human Caring Conference program book; 52, 2014)

4) 浜端賢次, 宮林幸江: Towards Patient Restraint Release Standards: Graduate Nursing Staff Criteria. 35th International Association for Human Caring Conference, 京都. 2014年5月24日. (35th International Association for Human Caring Conference program book; 47, 2014)

5) 川上 勝, 野澤翔馬, 尾崎功一: 認知症高齢者の離床動作出現時から夜勤介護職員の訪室までの所要時間調査. 医療の質・安全学会誌, 東京. 2014年11月22日. (医療の質・安全学会誌 9: 206, 2014)

6) 川上 勝, 柴山真理, 小林京子, 里光やよい, 村上礼子, 中村美鈴, 浅田義和: 看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割—病棟急変場面における声かけ—. 日本医療教授システム学会総会, 東京. 2014年3月8日. (日本医療教授システム学会総会プログラム・抄録集 6: 39, 2014)

7) 戸田浩司, 川上 勝, 伊藤弘人, 若林宣江:

摂食・嚥下障害患者における経口摂取訓練のためのスプーンの開発—第一報 開発過程を中心に—. 第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 東京. 2014年9月6日. (第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 抄録集; 1NN-P16-07, 2014)

8) 村上礼子, 川上 勝, 柴山真理, 里光やよい, 小林京子, 中村美鈴: 看護学生対象の効果的なICLSコース技術習得の試みについて. 第24回日本看護学教育学会学術集会, 千葉. 2014年8月26日. (日本看護学教育学会誌 24: 109, 2014)

(3) その他

1) 川上 勝, 中村美鈴, 里光やよい, 村上礼子, 熊谷祐子, 小林京子, 荒木智絵, 滝 恵津, 井上和子, 小谷妙子, 河野龍太郎, 浅田義和, 鈴木義彦, 早瀬行治: 看護学生向けICLSコースプログラムの教育効果に関する研究. 自治医科大学看護学ジャーナル, 11: 98, 2014.

2) 宇城 令, 川上 勝, 高山詩穂, 浅田義和, 鈴木義彦, 寺山美華, 野沢博子, 井上和子, 河野龍太郎: 看護基礎教育および卒後教育で使用する装着型関節拘縮体験シミュレーターの検討. 自治医科大学看護学ジャーナル, 11: 96, 2014.

資 料

2014年度（平成26年度）看護学部学年暦

○前学期

4月1日（火）	ガイダンス（2・3・4年）
4月2日（水）	授業開始（2・3・4年）
4月4日（金）	入学式、オリエンテーション（1年）
4月7日（月）	授業開始（1年）
4月26日（土）～5月6日（火）	春季休業
5月12日（月）～6月6日（金）	} 前学期実習（3年）
6月16日（月）～7月25日（金）	
5月14日（水）	創立記念日
6月9日（月）～6月13日（金）	対象の理解実習（1年）
7月17日（木）～7月18日（金）	定期試験（4年）
7月22日（火）～7月25日（金）	妊娠期助産学実習（4年）
7月28日（月）～8月8日（金）	総合実習（4年）
7月22日（火）～7月25日（金）	定期試験（1・2年）
8月6日（水）～9月28日（日）	夏季休業
8月27日（水）～8月29日（金）	再試験

○後学期

9月29日（月）	授業開始
9月1日（月）～10月31日（金）	分娩・育児期助産学実習（4年）
9月23日（火）～10月3日（金）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月10日（金）～10月12日（日）	学園祭
10月14日（火）～10月24日（金）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月17日（月）～12月19日（金）	} 後学期実習（3年）
1月5日（月）～2月13日（金）	
12月20日（土）～1月4日（日）	冬季休業
2月9日（月）～2月13日（金）	定期試験（1・2年）
2月26日（木）～2月27日（金）	再試験
3月6日（金）	卒業式
3月21日（土）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成27年3月31日現在）

1. 教 員 数	46名
2. 学 生 数	414名
4年生（平成23年4月1日入学）	102名
3年生（平成24年4月1日入学）	104名
2年生（平成25年4月1日入学）	103名
1年生（平成26年4月1日入学）	105名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
教授	春山早苗	地域看護学
教授	大塚公一	看護基礎科学
教授	永井優子	精神看護学
教授	中村美鈴	成人看護学
教授	成田伸子	母性看護学
教授	野々山未希	母性看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳香	基礎看護学
教授	宮林幸江	老年看護学
教授	横山由美	小児看護学
教授	横渡亮一	看護基礎科学
准教授	北田志郎	看護基礎科学
准教授	小原泉	成人看護学
准教授	里光やよい	基礎看護学
准教授	里鈴木久美	基礎看護学
准教授	角川志穂	地域看護学
准教授	塚本友栄	地域看護学
准教授	浜上賢次	老年看護学
准教授	村飯塚秀樹	看護基礎科学
講師	川上林京	老年看護学
講師	小島田裕子	小児看護学
講師	清水みどり	小児看護学
講師	千田理恵	小児看護学
講師	田村敦子	小児看護学
講師	長谷川直人	小児看護学
講師	平尾温司	看護基礎科学
助教	青木さざり	地域看護学
助教	荒川さゆり	母性看護学
助教	安藤由美	成人看護学
助教	飯井慎一郎	精神看護学
助教	石岩麻衣子	基礎看護学
助教	江角伸吾	基礎看護学
助教	小池純子	精神看護学
助教	小西克恵	小児看護学
助教	小篠有美	母性看護学
助教	柴山真里	母性看護学
助教	関山友子	地域看護学
助教	仙徳麻美	小児看護学
助教	中塚利佳	基礎看護学
助教	根来美子	母性看護学
助教	樅山美杉	成人看護学
助教	湯田紀子	基礎看護学
助教	吉澤弥生	基礎看護学

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	西浦 敬司
大学事務副部長 (看護学部担当)	石崎 雅司

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	埴 建夫
参事 (兼) 課長補佐	大石 千代
(兼) 係長	
主 事	森下 寿美子
主 事	富川 修平
主 事	津久井 仁美子
嘱 託	中村 里子

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	渡辺 秀男
参事 (兼) 課長補佐	三上 博史
係 長	湯浅 芳恵
主 事	佐藤 美里
主 事	三原 理央
主 事	佐藤 準也
嘱 託	高 楓 子

※平成26年4月1日～平成27年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2014年度（平成26年度）大学院看護学研究科学年暦

○前期

4月3日（木）	入学式 オリエンテーション，授業開始
4月10日（木）	履修計画の提出締切
5月14日（水）	創立記念日

○後期

10月1日（水）	授業開始
11月10日（月）	研究構想発表会
12月15日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切
1月26日（月）～1月30日（金）	論文審査・口頭試問
2月16日（月）	学位論文発表会（最終試験）
3月2日（月）	学位論文（保存用）提出締切
3月18日（水）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成27年3月31日現在）

1. 教 員 数	20名
2. 学 生 数	23名
2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	11（4）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	6（2）名
3年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（2）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（1）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（2）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
教授	春 山 早 苗	地 域 看 護 管 理 学
教授	大 塚 公一郎	共 通 科 目
教授	永 井 優 子	精 神 看 護 学
教授	中 村 美 鈴	クリティカルケア看護学
教授	成 田 伸	母 性 看 護 学
教授	野々山 未希子	母 性 看 護 学
教授	半 澤 節 子	精 神 看 護 学
教授	本 田 芳 香	が ん 看 護 学
教授	宮 林 幸 江	老 年 看 護 管 理 学
教授	横 山 由 美	小 児 看 護 学
教授	渡 邊 亮 一	共 通 科 目
准教授	北 田 志 郎	共 通 科 目
准教授	小 原 泉	が ん 看 護 学
准教授	里 光 やよい	看 護 技 術 開 発 学
准教授	鈴 木 久美子	地 域 看 護 管 理 学
准教授	塚 本 友 栄	地 域 看 護 管 理 学
准教授	角 川 志 穂	母 性 看 護 学
准教授	浜 端 賢 次	老 年 看 護 管 理 学
准教授	村 上 礼 子	クリティカルケア看護学
講 師	小 林 京 子	小 児 看 護 学

※平成26年4月1日～平成27年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	西 浦 敬
大学事務副部長 (看護学部担当)	石 崎 雅 司

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	埴 建 夫
参事 (兼) 課長補佐	大 石 千 代
(兼) 係長	
主 事	森 下 寿美子
主 事	富 川 修 平
主 事	津久井 仁 美
嘱 託	中 村 里 子

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	渡 辺 秀 男
参事 (兼) 課長補佐	三 上 博 史
係 長	湯 浅 芳 恵
主 事	佐 藤 美 里
主 事	三 原 理 央
主 事	佐 藤 準 也
嘱 託	高 槻 祥 子

編集後記

皆様方の多くのご協力により、本号上梓の運びとなりました。

本号では、ブータン医科大学と本看護学部との国際交流事業について国際交流委員に特別報告をいただいた。2014年8月に同医科大学と自治医科大学との国際交流協定の締結に至ったが、これまでの数回にわたるブータン渡航を含めて並々ならぬ努力をされてきた春山学部長をはじめ、国際交流委員、同ワーキンググループの先生方、関係者の皆さまにあらためて敬意を表したいと思います。また、本看護学部は、2014年度保健師・助産師の国家試験合格率100%、看護師の国家試験の新卒合格率も100%という開学以来の快挙を成し遂げました。そこで、国家試験対策委員長に、同委員会および本学部教員・事務職員の学生へのサポートの実際について寄稿いただいた。一読してわかるように、これらの取り組みも本学部が誇るべき強みの一つであることを再認識しました。

本号に寄稿いただいた教員の皆様、編集作業にご協力いただいた事務職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。本年報もまた、本学の教育・研究の活性化に寄与し、看護学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう、次号以降も努めてまいります。

皆様の一層のご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

（平成28年3月編集委員会副委員長 大塚 公一郎）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委員長 本田 芳香

副委員長 大塚公一郎

委員 小原 泉

塚本 友栄

飯塚 秀樹

千葉 理恵

編集担当 看護総務課

森下寿美子

自治医科大学看護学部年報（第13号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第9号）

平成28年3月31日発行

発行者	学部長（研究科長） 春山早苗
編集責任者	編集委員会委員長 本田芳香
発行所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311-159 電話 0285（58）7409
印刷所	（株）松井ビ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5-9-21 電話 028（662）2511（代）